

令和5年度
(2023年4月～2024年3月)

事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

目 次

I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	4
(3) 巡回調査ほ場数	-----	5

2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和5年産）

(1) 早期水稲	-----	6
(2) 普通期水稲	-----	6
(3) カンショ	-----	6
(4) 大豆	-----	7
(5) ジャガイモ	-----	7
(6) かんきつ類（露地栽培）	-----	7
(7) 茶	-----	7
(8) 冬春きゅうり	-----	8
(9) 冬春ピーマン	-----	8
(10) 冬春トマト	-----	9
(11) 冬春いちご	-----	9
(12) 秋冬だいこん	-----	10
(13) サトイモ	-----	10

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1) 水稲、かんきつ病害の初発日

ア 水稲	-----	11
イ かんきつ	-----	11

(2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況

(1) 延岡市	-----	12
(2) 宮崎市佐土原町	-----	13
(3) 国富町	-----	14
(4) 都城市	-----	15

5) フェロモントラップによる誘殺状況		
(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 6
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 8
(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	2 0
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 2
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 4
(6) コブノメイガの誘殺状況	-----	2 6
6) 果樹カメムシ類の誘殺状況		
(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 7
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	3 1
7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況		
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 5
(2) 発生面積及び防除面積等	-----	4 2
8) 有害動植物発生予察事業実施状況		
(1) 発表情報一覧（警報、注意報、特殊報、防除情報）	-----	4 8
(2) 情報の内容	-----	4 9
2 侵入調査事業		
1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	6 2
2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	6 3
3) トマトキバガ侵入警戒調査	-----	6 4
4) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	6 4
5) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	6 4
3 その他の調査、検定等		
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	6 5
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	6 7
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	6 8
4) サツマイモ基腐病に関する調査	-----	6 9
5) マイナー作物農薬登録の推進について	-----	7 3
III その他		
1 病虫害防除員の設置状況	-----	7 4
2 巡回調査ほ場の分布図	-----	7 5
IV 令和5年度気象概況	-----	7 6

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 (兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4 ~)
 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 倉 富 文 代	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること 2 病虫害の適正防除指導に関すること 3 病虫害の診断及び検定に関すること 4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること 5 農薬指導取締に関すること 6 農薬安全使用指導に関すること 7 その他植物防疫に関すること 8 肥料の分析及び取締に関すること
副主幹 久 野 公 子	
主 査 榎 本 清 和	
専門技師 本 山 宏	
技 師 阿 萬 祐 樹	
技 師 田 爪 隆太郎	
農薬登録研究員 寺 本 敏	
農業研究調査補助員	
富 永 洋 子	5 農薬指導取締に関すること
宮 地 千 詠	6 農薬安全使用指導に関すること
水 間 優 子	7 その他植物防疫に関すること
(兼務職員)	
土壤環境部	
副 部 長 甲 斐 宏 一	8 肥料の分析及び取締に関すること
主任研究員 吉 留 悠 太	
技 師 田 上 遊 里	

4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
倉 富	久 野	1 病虫害防除・肥料検査課の総括に関すること 2 各種協議会に関すること
久 野	榎 本	1 植物防疫関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察及び情報作成の総括に関すること 3 営農振興協議会に関すること 4 農薬取締に関すること 5 ひなた MAFiN に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
榎 本	本 山	1 果樹・茶の発生予察調査及び情報作成に関すること 2 特殊病虫害侵入警戒調査に関すること 3 病虫害診断対策に関すること 4 農薬取締に関すること
榎 本	阿 萬	1 果樹・茶の病虫害発生予察調査及び情報作成に関すること 2 特殊病虫害侵入警戒調査の調査に関すること 3 各種病虫害薬剤感受性調査に関すること 4 病虫害診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること
本 山	阿 萬	1 病虫害発生予察に関すること 2 病虫害診断対策に関すること 3 情報ネットワーク保守・管理に関すること 4 農薬取締に関すること
阿 萬	田 爪	1 普通作物の発生予察調査及び情報作成に関すること 2 サツマイモ基腐病対策に関すること 3 各種病虫害薬剤感受性調査に関すること 4 病虫害診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること
田 爪	久 野	1 野菜・花きの発生予察調査及び情報作成に関すること 2 トマトキバガ対策に関すること 3 病虫害診断対策に関すること 4 農薬取締に関すること
寺 本	—	1 マイナー作物の農薬登録促進に関すること 2 薬品の保管管理に関すること
富 永	—	1 病虫害の発生予察に係る調査補助及びデータ入力・集計業務 2 病虫害の診断補助業務
宮 地	—	1 病虫害の発生予察に係る調査補助及びデータ入力・集計業務 2 病虫害の診断補助業務

Ⅱ 事 業 実 績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名 (種類数)
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、ばか苗病、もみ枯細菌病、縞葉枯病、ごま葉枯病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ (17)
	サツマイモ	ナカジロシタバ (1)
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類 (2)
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類 (6)
	チャ	炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、チャトゲコナジラミ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、ハダニ類、ハマキムシ類 (8)
野菜	キュウリ	うどんこ病、褐斑病、炭疽病、灰色かび病、斑点細菌病、べと病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類 (10)
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類 (2)
	トマト	うどんこ病、疫病、黄化葉巻病、すすかび病、灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類 (9)
	ダイコン	アブラムシ類 (1)
	イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類 (7)
作物共通		オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、果樹カメムシ類 (6)
	計	69種類

(2) 指定外病害虫

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、黄萎病、黄化萎縮病、内穎褐変病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ（11）
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズメ（6）
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ（2）
果樹等作物	カンキツ	青・緑かび病、灰色かび病、吸蛾類、コアオハナムグリ、ケシキスイ類、ミカンハモグリガ（6）
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、ツマグロアオカスミカメ（5）
野菜	キュウリ	疫病、退緑黄化病、黄化えそ病、菌核病、つる枯病、つる割病、モザイク病、ウリノメイガ、ウリハムシ、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類（11）
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、黒枯病、モザイク病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類、ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ（17）
	トマト	青枯病、軟腐病、萎凋病、菌核病、斑点病、モザイク病、輪紋病、褐色輪紋病、ハモグリバエ類（9）
	ダイコン	萎黄病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンハムシ（7）
	イチゴ	萎黄病、菌核病、じゃのめ病、輪斑病（4）
計		78種類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中 部	南 那 珂	北 諸 県	西 諸 県	児 湯	東 白 杵	西 白 杵	計
早期水稻	11	6			12	4		33
普通期水稻	5		10	8		10	6	39
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ			6		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		2	15
冬春キュウリ	9	1	2			2		14
冬春ピーマン	3	2			6			11
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
計	49	18	29	13	41	26	8	184

2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和5年産）

(1) 早期水稲

スクミリンゴガイは、4月中旬の発生面積率及び発生程度（㎡当たり貝数）はいずれも平年比少であった。その後、発生がやや増加し、5月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや多の発生であった。一部のほ場では食害・欠株が確認された。

葉いもちは、初発生が6月6日で平年よりやや遅かった（平年：5月28日）。6月下旬の発生面積率及び発病度はいずれも平年並の発生であり、山際等の一部ほ場では多発生が確認された。6月中旬～下旬にいもち病に好適な気象条件が続いたことから、穂いもちの発生が助長され、7月中旬の穂いもちの発生面積率は平年並、発病穂率は平年比やや多の発生であった。それ以外は、好適条件日は比較的少なく、適期防除が行われたものとみられる。

紋枯病は、6月下旬頃から発生が確認され、発生面積率・発病度いずれも調査期間を通して平年並～少で推移した。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年比やや少、本田での発生は6月中旬～下旬にかけて、発生面積率は平年並、発生程度（20回振り虫数）は平年並～やや多であった。その後、一部のほ場では多発生が確認されるなどやや増加傾向にあったが、7月中旬は、発生面積率及び発生程度はいずれも平年比少の発生であった。

(2) 普通期水稲

葉いもちは、7月中旬から発生が確認された。7月中旬～8月中旬までは平年並～少の発生で推移したが、8月の長雨や台風6号（8月上旬）の接近により、8月下旬に発生がやや増加し、8月下旬の発生面積率は平年比やや多、発病度は平年並の発生であった。穂いもちは、9月中旬の発生面積率及び発病穂率はいずれも平年並の発生であった。

紋枯病は、7月下旬から確認され、8～9月の気温が平年より高めで推移したことから発生が助長されたと推測され、8月下旬～9月中旬の発生面積率及び発生程度はいずれも平年比多の発生であった。

セジロウンカは、初飛来が平年よりやや早い5月30日（平年：6月5日）に確認され、その後も断続的に予察灯での誘殺が確認されたが、予察灯での誘殺数は、4～9月の合計で1251頭（平年：1193.7頭、前年：798頭）で、平年並であった。本田では、6月中旬から確認され、調査期間を通して平年並～やや少の発生で推移した。

トビイロウンカは、初飛来が平年より遅い7月4日（平年：6月14日）に確認され、しばらくは誘殺は確認されなかったが、6月5半旬から断続的に誘殺が確認されるようになった。予察灯での誘殺数は、4月～9月の合計で37頭（平年603.7頭、前年207頭）で、平年より少なかった。本田では、7月下旬から一部ほ場で発生が確認された。7月～9月の発生面積率及び発生程度いずれも平年並～少で推移した。

コブノメイガは、フェロモントラップでの初誘殺が平年より遅い7月13日（平年：6月24日）に確認された。本田では、7月下旬から被害が確認され、7月下旬が平年比やや多の発生で、その後8月中旬～下旬まで平年並～やや少の発生であったが、9月中旬に再び平年比やや多の発生となった。一部で被害が目立つほ場が確認された。

斑点米カメムシ類は、7月中旬から発生が確認され、8月中旬～9月中旬にかけて、発

生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比やや多～並で推移した。8月を除き、高温・少雨傾向が続き、カメムシ類の活動に好適な条件であったと推測される。

(3) カンショ

イモキバガは、8月中旬の発生面積率及び発生程度（被害葉率、 m^2 当たり虫数）はいずれも平年比やや多で、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少であった。

ナカジロシタバやハスモンヨトウは、8～10月の発生面積率及び発生程度（被害葉率）はいずれも平年比やや多で推移した。

サツマイモ基腐病は、5月中旬に本ぼでの初発が確認された（病害虫防除情報第1号(R5.5.17)）。その後も発生が増加傾向にあったため病害虫発生予察注意報第1号(R5.8.9)を発表した。

(4) ジャガイモ

疫病は、4月中旬の発生は確認されなかったが、5月中旬の発生面積率及び発生程度（発病度）はいずれも平年比やや多の発生であった。

ニジュウヤホシテントウは、4月中旬の発生面積率及び発生程度（株当虫数）はいずれも平年比やや多であったが、5月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少であった。

ハスモンヨトウは、4月中旬の発生は確認されなかったが、5月中旬の発生面積率及び発生程度（被害葉率）はいずれも平年比多であった。

(5) かんきつ類（露地栽培）

そうか病の葉での初発は、4月中旬と平年よりやや早かった（平年比-6日）。葉では5月中旬から発生が増加し、6月の発生ほ場率及び発病度はいずれも平年比多であった。果実でも6月から発生が多く、8月の発生ほ場率及び発病度はいずれも平年比多であった。

黒点病の初発は、果実で平年よりやや遅く（平年比+10日）、発生量は平年比やや少～並で推移した。

かいよう病の初発は、葉及び果実で平年より遅かった（葉：平年比+16日、果実：平年比+9日）。葉及び果実いずれも調査期間を通して、平年並～やや少の発生で推移した。

ミカンハダニは、5月から発生が増加し、5～7月の発生は平年比多～やや多であった。一部ほ場で甚～多発生が確認された。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、ツヤアオカメムシが9月下旬～10月上旬、チャバネアオカメムシが6月中旬と9月下旬～10月上旬にピークがみられ、両種とも平年並かそれ以下の誘殺数で推移した。

(6) 茶

炭疽病は平年比多、輪斑病は平年比やや多、もち病は山間部を主体に平年比やや少の発生であった。

チョウ目害虫のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキが平年比多、チャハマキが平年並、チャノホソガが平年比やや多であった。ほ場での発生は、チャノコカクモンハマキ及びチャハマキ、チャノホソガいずれも平年比多の発生であっ

た。

カンザワハダニは、越冬後の寄生密度は平年比やや多で、8月までは平年並～少の発生で推移したが、10月以降発生が増加し、10～11月の発生は平年比多～やや多の発生であった。

チャノミドリヒメヨコバイは、5～6月の発生は平年比多～やや多で推移したが、その後9月までは平年比やや少～並で推移した。10月に再び発生が増加し、平年比やや多の発生であった。

チャノキイロアザミウマは、4月は平年比やや多の発生であったが、その後の調査期間は平年比並～少で推移した。

クワシロカイガラムシは、6月及び8月、10月に発生のピークがみられ、それぞれ平年比多～やや多の発生であった。ほ場間差が大きく、県南ほ場で甚発生ほ場もみられた。

(7) 冬春きゅうり（栽培期間：令和4年9月～令和5年6月）

べと病は、11月から発生を確認し、その後も4月の調査終了時まで継続的に発生が確認されたが、栽培期間中における発生面積及び発生程度はいずれも平年比やや少であった。

うどんこ病は、平年よりも遅い11月から発生を確認し、1月は一部のほ場で甚発生が確認されたものの、栽培期間中の発生面積は平年比少、発生程度は平年並であった。

褐斑病、灰色かび病は、いずれも一部で断続的に確認され、平年並の発生であった。

黄化えそ病は、ミナミキイロアザミウマの発生に伴って10月の調査開始時から継続して発生を確認した。栽培期間中の発生面積率及び発生程度いずれも平年並であった。

ミナミキイロアザミウマは、10月の調査開始時から平年よりも多い発生を確認したが、その後の発生は平年並で推移し、例年発生が急増する3月以降は発生を抑制できた。

タバココナジラミも10月の調査開始時から多くの発生が確認され、その後発生程度は減少傾向で推移したものの、12月調査時点でも発生程度が平年比多であった。ピーマンやトマトでもコナジラミ類の発生が多かったことから、病害虫防除情報第7号（R4.12.27）を発出し、注意を促した。2月以降は発生面積率及び発生程度を平年比やや少～並まで抑制できたが、栽培期間中における発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比多であった。

タバココナジラミやミナミキイロアザミウマの発生が10月の調査開始時から多かった原因として、9月の気温が高温で推移し、定植初期に野外からの侵入量が多かったこと、苗でのほ場への持込みが多かったことが考えられた。

(8) 冬春ピーマン（栽培期間：令和4年9月～令和5年6月）

うどんこ病は、11月から発生を確認し、3月まで平年より少ない発生であった。4月は発生面積率・程度ともに平年比やや多であったが、栽培期間中における発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年比少であった。

斑点病は、12月から発生を確認し、その後も発生は増加の一途をたどり、4月の調査終了時まで発生面積率及び発生程度が平年比やや多～多で推移した。

黒枯病は、12月と4月で単発的に発生が確認され、特に4月は平年より発生が多かった。

ミナミキイロアザミウマは、10月の調査開始時から発生を確認したが、その後の発生は横ばいから減少傾向で推移し、栽培期間中における発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少であった。例年発生が急増する3月以降も発生を抑制できた。

ヒラズハナアザミウマは、10月の調査開始時から発生を確認して以降、11月に急増し、

その後も継続的に発生した。1月調査時においても発生が減少することなく、発生面積率・程度ともに平年比多であったため、病害虫防除情報第9号（R5.1.26）を発出し、注意を促したが、発生を抑制できず、栽培期間をとおして平年比やや多～多の発生であった。

タバココナジラミは、10月の調査開始時から平年よりやや多い発生を確認し、12月調査時点においても発生量が平年比やや多であったため、病害虫防除情報第7号（R4.12.27）を発出し、注意を促した。その後の発生は横ばい～減少傾向で推移したが、栽培期間中における発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多であった。

(9) 冬春トマト（栽培期間：令和4年9月～令和5年6月）

灰色かび病は、株での発生を1月から確認し、調査終了時まで継続して発生が確認された。栽培期間中において発生面積率及び発生程度いずれも平年並であった。

葉かび病は、12月から調査終了時まで一部ほ場で少発生が継続して確認された。

すすかび病は、10月の調査開始時に平年より多い発生を確認したものの、その後の発生は平年比やや少～平年並で推移し、栽培期間中における発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年並であった。

うどんこ病は、11月から発生を確認し、12月まで平年並の発生であったが、1月に発生が急増し、1月から2月にかけて発生面積率及び発生程度いずれも平年比多であった。

タバココナジラミは、10月の調査開始時から平年よりやや多い発生を確認した。その後11月に発生面積率が急増し、12月には全ての調査ほ場で発生を確認した。12月調査時点において発生面積率・程度ともに平年比多であり、他の作物でも発生が多かったため、他の作物と合わせて、病害虫防除情報第7号（R4.12.27）を発出し、注意を促した。その後の発生面積は若干減少したが、栽培期間中における発生面積率及び発生程度はいずれも平年比多であった。

(10) いちご（栽培期間：令和4年9月～令和5年5月）

うどんこ病は、10月の調査開始時から葉での発生を確認した。その後調査終了時まで、横ばい～減少傾向で推移し、栽培期間における葉での発生は発生面積率平年比少、発生程度平年並であった。果実での発生は12月と4月に確認され、栽培期間をとおして平年並の発生であった。

灰色かび病は、調査期間をとおして調査ほ場では確認されなかった。

ハダニ類は、親株調査において発生面積率及び発生程度はいずれも平年比少であった（令和4年5月調査）。本ぼでは10月の調査開始時から発生を確認し、12月まで増加傾向であったが、栽培期間中における発生面積率及び発生程度はいずれも平年並であった。

オンシツコナジラミは、12月から発生を確認し、12月の発生面積率及び発生程度いずれも平年比やや多であり、他の作物でも発生が多かったため、他の作物と合わせて、病害虫防除情報第7号（R4.12.27）を発出し、注意を促した。その後は2月まで平年並の発生であったが、栽培終期の3月に発生が急増した。

ヒラズハナアザミウマは、11月から平年よりも多発生で推移し、12月の調査で発生面積率・程度ともに平年比多であった。そのため、病害虫防除情報第8号（R4.12.27）を発出して注意を促したが、その後も発生数は増加し、調査終了時まで平年比多で推移した。

(11) 秋冬だいこん（栽培期間：令和4年9月～4年12月）

病害は目立った発生はなく、平年並の発生であった。害虫の発生は、10月は平年並であ

ったが、11月はアブラムシ、ダイコンハムシの発生面積率が平年比多であった。その他の害虫は11月も平年並以下の発生であった。

(12)サトイモ（栽培期間：令和5年3月～令和5年9月）

疫病は、前年に次いで過去2番目に遅い、6月29日（前年：7月7日）に現地での発生確認情報があり、病虫害防除情報第3号（R5.7.18）を発出した。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

(単位：月.日)

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	6. 5	5.28	5.25	7.10	7. 1	7. 6
穂いもち	7.10	7. 7	7. 7	9. 6	9. 8	9. 6
紋枯病	6.22	6.30	7.12	7.26	8. 4	7.25
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

(単位：月.日)

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4.18	4.24	4.25	6. 7	6. 6	5.23
黒点病		5.21	6. 9	7. 8	6.28	6.28
かいよう病	6. 8	5.23	5.19	7. 8	6.29	7. 9

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

(単位：月.日)

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5.30	6.13	6.20	7. 4	6.26	6.20	7. 6	6.24	6.28	6. 2	6.12	6. 6
トビイロウンカ		9.15	7.14	8. 4	9.28	8. 5	7.24	9.21	7. 9	7.13	7. 4	6.21	4.27
ヒメトビウンカ		7. 6	6.12	6.11	7. 5	7.20	7. 8	7.21	7.28	8. 4	6. 6	6.27	5.15
ツマグロヨコバイ		5.17	5.18	5. 8	5.30	6. 7	6. 7	5.16	5.16	5. 7	5.12	5.20	5.23
コブノメイガ		8.21	7. 5	—	—	8.16	—	8.21	8. 2	9. 8	8.13	7.29	8.20

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡市

※「-」は欠測

(単位：頭)

月	半月	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.3	0	0	0	0	0	0
	4	1	2.3	0	0.2	0	0	0	0.5
	5	5	11.9	0	0.1	0	0	0	0.7
	6	74	30.4	1	0.3	0	0.1	0	0.8
	計	80	45.0	1	0.6	0	0.1	0	2.0
6	1	4	73.6	0	0.7	0	0	0	0.6
	2	3	43.5	0	10.7	0	0	0	0.3
	3	8	22.2	0	1.5	0	0	0	0.3
	4	1	6.7	1	1.0	0	0.2	0	0.3
	5	0	3.9	2	1.8	0	0.1	0	0.5
	6	0	1.5	0	3.9	0	0.9	0	1.0
	計	16	151.4	0	19.6	0	1.2	0	3.0
7	1	1	0.9	8	5.8	0	2.0	0	0.6
	2	4	1.3	5	7.4	0	4.5	10	0.5
	3	43	2.5	0	12.4	0	4.2	0	0.4
	4	20	4.6	0	3.2	0	1.3	0	0.5
	5	3	8.8	0	1.2	0	1.6	1	0.2
	6	1	12.9	0	2.2	0	0.3	0	0.4
	計	72	31.0	13	32.2	0	13.9	11	2.6
8	1	1	4.8	8	16.4	0	0.9	1	0.4
	2	3	5.3	67	3.5	0	0.9	3	0.3
	3	5	10.6	32	3.2	0	1.2	5	1.0
	4	0	25.3	3	10.3	0	1.2	0	2.3
	5	0	23.4	1	20.2	0	3.7	0	2.2
	6	3	9.3	1	19.0	0	18.6	3	4.5
	計	12	73.4	112	72.6	0	26.5	12	10.7
9	1	1	4.3	25	14.1	0	4.7	1	1.1
	2	0	5.7	20	23.1	0	22.8	4	2.9
	3	0	5.8	9	38.8	1	80.2	3	2.2
	4	5	4.8	1	16.4	0	15.5	0	1.7
	5	5	14.5	7	10.2	16	27.1	0	3.6
	6	3	3.3	1	7.9	1	33.1	0	5.4
	計	14	37.8	63	110.5	18	183.4	8	16.9
10	1	0	6.3	0	1.2	2	71.2	0	1.3
	2	0	5.4	1	4.3	0	42.9	0	2.5
	3	0	0.2	0	5.1	0	40.9	0	2.1
	4	0	0.4	0	1.0	1	14.6	0	2.6
	5	0	0	0	0.2	0	11.3	0	0.7
	6	-	0	-	0	-	4.5	-	0.0
	計	0	12.3	1	11.8	3	185.4	0	9.2

※「-」は欠測

(2) 宮崎市佐土原町 (総合農試)

(単位:頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.3	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0
	6	0	0.5	0	0.0	0	0	0	0
	計		0	0.9	0	0.0	0	0	0
6	1	1	0.3	0	0.0	0	0	0	0
	2	0	1.3	0	0.2	0	0	0	0.0
	3	1	1.1	0	0.2	0	0	0	0.0
	4	0	2.5	0	1.7	0	0	0	0.0
	5	4	2.0	0	1.0	0	0.5	0	0
	6	0	1.6	0	3.3	0	0	0	0
	計		6	8.7	0	6.4	0	0.5	0
7	1	1	1.9	1	3.2	0	0.1	1	0.1
	2	2	2.2	0	3.8	0	0	0	0.6
	3	3	3.4	0	1.0	0	0.6	0	0.1
	4	1	5.1	0	0.6	0	2.2	0	0.2
	5	0	6.6	0	3.5	0	0	0	1
	6	2	18.2	0	0.5	0	1.2	0	0
	計		9	36.9	1	12.5	0	4.5	1
8	1	1	11.4	0	0.5	0	0	0	0.4
	2	3	13.2	20	0.2	0	0	0	0
	3	2	11.0	1	1.5	0	0	0	0
	4	4	8.1	0	4.6	0	0.3	0	0.3
	5	1	3.6	0	32.5	0	3.6	0	0.6
	6	0	3.0	0	8.6	0	0.9	0	0
	計		11	50.3	21	47.9	0	5.0	0
9	1	0	1.9	2	8.5	0	2.6	0	1
	2	0	1.0	1	5.0	0	2.2	0	0.3
	3	1	1.1	3	6.3	0	9.4	0	0.2
	4	2	0.8	1	3.4	0	4.8	0	0.6
	5	0	1.2	0	3.6	0	4.0	0	0
	6	0	0.4	14	2.7	5	2.2	3	0.4
	計		3	6.4	21	29.2	5	25.2	3
10	1	0	0.6	1	1.7	1	3.3	0	0
	2	0	0.5	0	1.1	0	5.7	0	0
	3	0	0.5	0	1.7	0	4.3	0	1
	4	0	0	0	1.7	1	0.9	0	0
	5	0	0	0	0.6	0	1.2	0	0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.3	0	0
	計		0	1.7	1	6.9	2	15.7	0

(3) 国富町

※「-」は欠測

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.2	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
	4	4	4.0	0	0	0	0	0	0
	5	3	7.8	0	0.0	0	0	0	0.0
	6	7	32.9	0	0	0	0	0	0
	計		14	45.0	0	0.2	0	0	0
6	1	13	14.1	0	0	0	0	0	0
	2	1	23.3	0	2.3	0	0	0	0.0
	3	1	28.2	0	0.3	0	0	0	0.1
	4	1	25.6	0	0.6	0	0.0	0	0.3
	5	3	6.3	0	0.2	0	0	0	0.3
	6	1	3.6	0	1.3	0	0.2	0	0.2
	計		20	97.5	0	1.9	0	0.3	0
7	1	0	2.3	0	7.1	0	5.9	0	0.0
	2	1	6.1	10	4.6	0	4.1	0	1.1
	3	0	4.7	0	0.5	0	1.9	0	0.1
	4	7	5.8	0	0.6	0	0.3	0	0.2
	5	3	6.8	1	2.9	0	0.6	3	0.5
	6	1	8.8	3	2.0	0	1.1	1	1.4
	計		12	34.3	14	17.0	0	13.3	4
8	1	4	9.0	0	1.3	0	0.7	1	0.6
	2	3	13.0	12	1.3	0	0.5	0	0.3
	3	2	17.3	3	2.1	0	0.9	0	0.1
	4	4	14.9	0	0.8	0	0.7	0	0.3
	5	1	7.1	0	1.1	0	4.7	0	0.4
	6	2	10.7	0	9.7	0	12.8	0	1.7
	計		16	72.0	15	16.3	0	20.2	1
9	1	0	1.7	1	7.2	0	11.0	0	0.3
	2	2	2.7	1	3.2	0	7.2	0	0.4
	3	0	1.6	2	5.1	0	14.5	1	1.0
	4	1	2.3	0	2.9	0	5.9	0	1.1
	5	2	1.4	0	3.3	1	4.9	0	1.1
	6	3	0.8	1	1.6	0	13.1	0	0.1
	計		8	10.5	5	23.3	1	56.6	1
10	1	0	0.9	0	1.4	1	26.6	0	0.4
	2	0	0.4	-	1.5		15.6	0	0.2
	3	0	0.2	0	0.5	0	20.7	0	0.5
	4	0	0	0	0.3	0	27.3	0	0
	5	0	0	0	0.5	0	11.8	0	0
	6	-	0	-	0.3		5.8	-	0
	計		0	1.5	0	4.5	1	107.2	0

※「-」は欠測

(4) 都城市

※「-」は欠測

(単位：頭)

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		0	0.0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0.0
	3	3	0.2	0	0	0	0.2	0	0.2
	4	24	1.9	0	0	0	0	0	0.1
	5	7	5.8	0	0	0	0	0	0
	6	538	17.5	0	0.2	0	0	0	0
	計		572	25.5	0	0.3	0	0.2	0
6	1	112	24.8	1	0.3	0	0	0	0
	2	35	37.7	4	14.0	0	0.1	1	0
	3	45	34.3	1	3.4	0	0	0	0
	4	13	5.6	1	5.3	0	0.0	0	0
	5	2	2.5	1	24.1	0	0.8	0	0
	6	1	4.7	2	9.9	0	1.2	1	0.0
	計		208	109.6	10	57.0	0	2.1	2
7	1	17	2.6	324	41.4	2	37.0	3	1.4
	2	29	6.3	586	73.8	2	12.5	8	0.9
	3	127	15.0	18	19.2	0	4.9	1	0.3
	4	147	30.5	22	11.8	0	1.5	3	0.8
	5	77	49.6	1	25.4	0	0.6	4	1.3
	6	43	74.3	0	16.3	0	2.1	0	3.0
	計		440	178.3	951	187.9	4	58.6	19
8	1	94	40.7	4	5.0	0	1.7	1	1.2
	2	33	60.0	3	5.6	0	2.7	1	1.3
	3	306	75.8	7	10.2	0	1.7	1	0.7
	4	184	121.1	2	9.3	0	1.8	3	0.1
	5	84	83.3	1	6.4	0	1.8	0	1.4
	6	36	91.1	0	15.3	0	15.1	1	3.3
	計		737	459.9	17	50.9	0	24.6	7
9	1	10	43.0	1	9.3	0	8.9	0	0.7
	2	11	37.3	2	13.0	0	35.0	0	0.8
	3	32	13.8	0	8.7	0	43.6	0	1.0
	4	29	29.2	0	4.8	0	19.3	0	1.2
	5	81	32.0	0	8.8	3	23.5	0	0.4
	6	150	29.1	1	3.8	6	32.6	1	0.2
	計		313	181.5	4	48.0	9	159.6	1
10	1	17	28.1	1	1.7	5	86.7	2	1.3
	2	44	6.6	0	3.2	3	117.8	0	0.7
	3	0	3.0	0	1.8	0	58.4	0	2.4
	4	0	1.9	0	1.1	0	116.9	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.5	0	67.1	0	0.6
	6	-	0.3	-	1.1	-	36.8	-	0
	計		61	39.9	1	9.3	8	480.0	2

※「-」は欠測

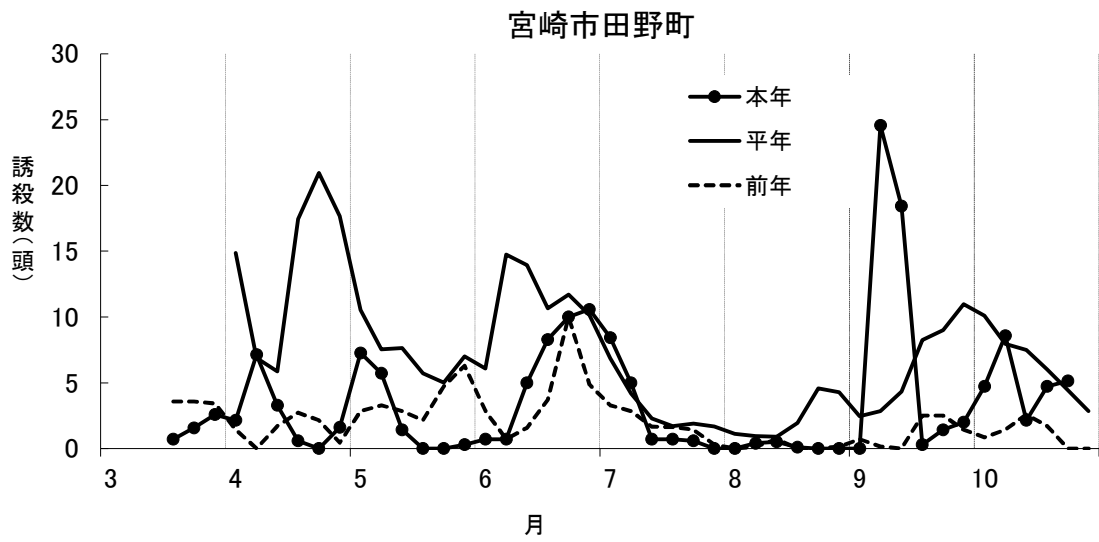
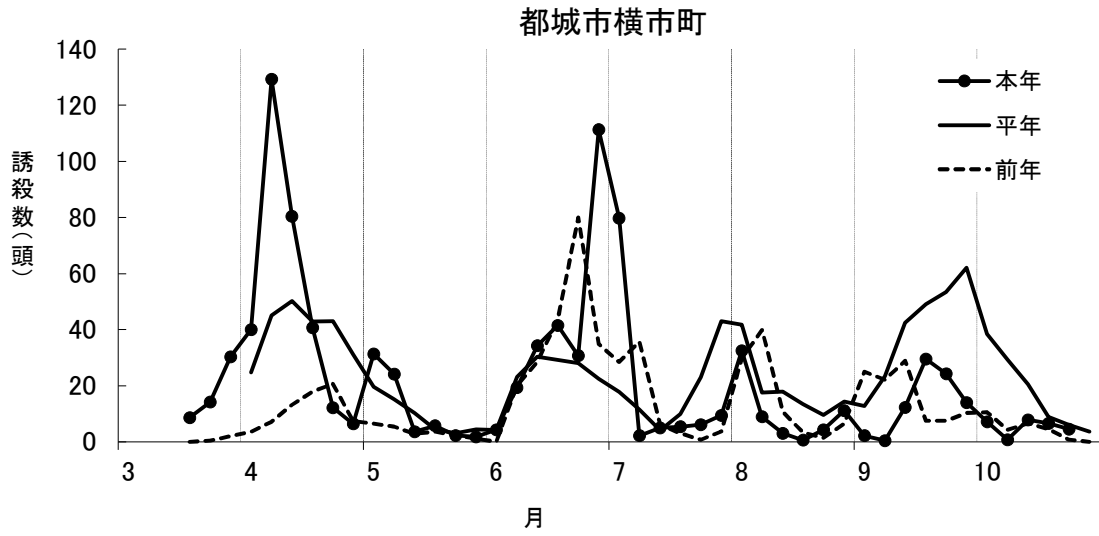
5) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都城市(横市町)			宮崎市(田野町)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1						
	2						
	3						
	4	9		0	1		4
	5	14		0	2		4
	6	30		2	3		3
4	1	40	25	4	2	15	1
	2	129	45	7	7	7	0
	3	80	50	13	3	6	2
	4	41	43	18	1	17	3
	5	12	43	21	0	21	2
	6	6	31	7	2	18	0
5	1	31	20	7	7	11	3
	2	24	15	5	6	8	3
	3	4	10	3	1	8	3
	4	6	4	4	0	6	2
	5	2	3	2	0	5	5
	6	2	5	1	0	7	6
6	1	4	4	0	1	6	3
	2	19	23	20	1	15	1
	3	34	30	29	5	14	2
	4	42	29	43	8	11	4
	5	31	28	80	10	12	10
	6	111	22	35	11	10	5
7	1	80	18	28	8	7	3
	2	2	11	36	5	4	3
	3	5	4	6	1	2	2
	4	5	10	3	1	2	2
	5	6	23	1	1	2	1
	6	9	43	4	0	2	0
8	1	33	42	30	0	1	0
	2	9	18	40	0	1	0
	3	3	18	11	1	1	1
	4	1	13	3	0	2	—
	5	4	10	1	0	5	—
	6	11	14	6	0	4	0
9	1	2	13	25	0	2	1
	2	0	23	22	25	3	0
	3	12	42	29	18	4	0
	4	30	49	8	0	8	3
	5	24	53	8	1	9	3
	6	14	62	10	2	11	1
10	1	7	39	11	5	10	1
	2	1	29	4	9	8	1
	3	8	21	7	2	7	3
	4	7	9	5	5	6	2
	5	5	6	1	5	4	0
	6	—	4	0	—	3	0

※「—」は欠測



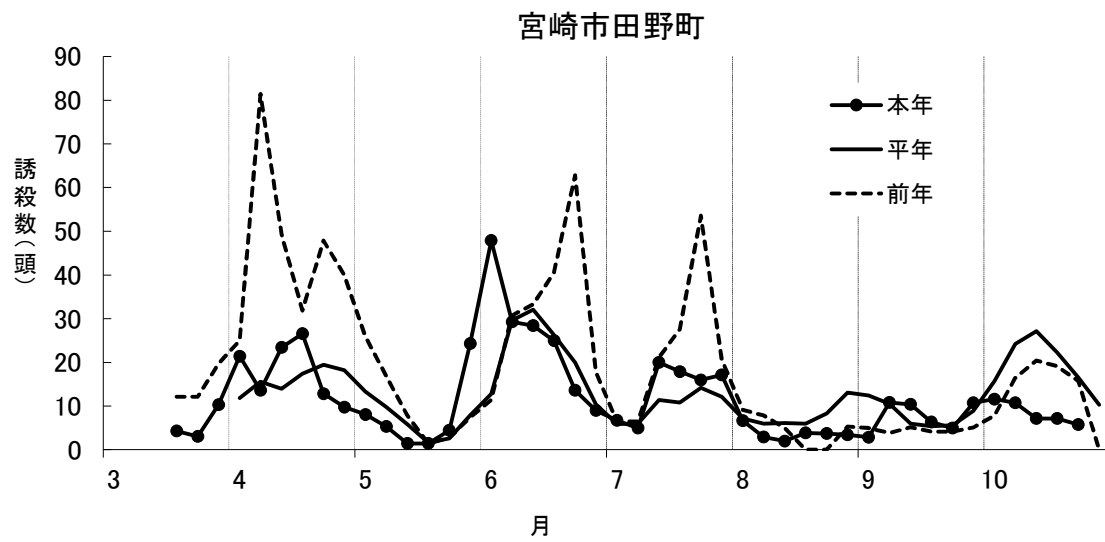
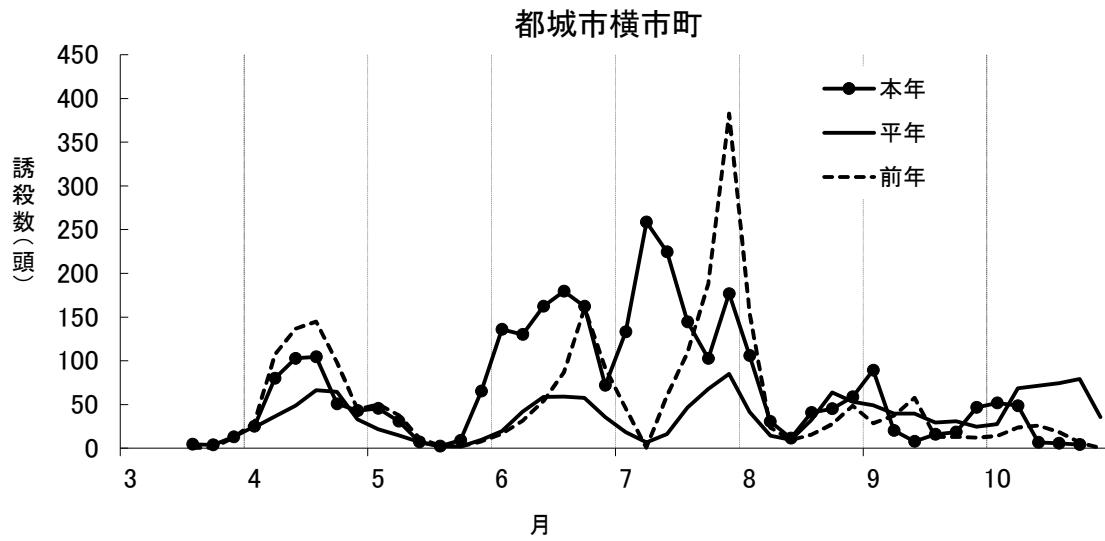
チャハマキのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都城市(横市町)			宮崎市(田野町)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1						
	2						
	3						
	4	4		1	4		12
	5	4		1	3		12
	6	13		12	10		20
4	1	25	24	29	21	12	25
	2	80	36	107	14	16	81
	3	103	49	137	23	14	49
	4	104	67	145	27	17	32
	5	51	64	98	13	19	48
	6	43	33	44	10	18	40
5	1	45	22	50	8	13	26
	2	31	15	38	5	10	17
	3	7	7	11	1	6	8
	4	2	2	3	1	2	1
	5	9	2	2	4	3	3
	6	65	9	8	24	8	7
6	1	136	20	16	48	13	11
	2	130	42	31	29	30	31
	3	162	58	54	28	32	33
	4	179	59	87	25	26	41
	5	162	57	160	14	20	63
	6	72	36	92	9	10	18
7	1	133	18	45	7	6	6
	2	259	7	1	5	6	6
	3	224	16	60	20	11	21
	4	145	47	110	18	11	28
	5	103	68	188	16	14	54
	6	177	85	383	17	12	21
8	1	106	41	154	7	7	9
	2	30	14	24	3	6	8
	3	12	10	9	2	6	5
	4	41	32	16	4	6	—
	5	45	64	27	4	8	—
	6	59	53	49	3	13	5
9	1	89	49	29	3	12	5
	2	20	40	37	11	11	4
	3	8	39	58	10	6	5
	4	16	29	13	6	5	4
	5	19	31	13	5	6	4
	6	47	24	12	11	9	5
10	1	52	28	14	12	16	8
	2	49	69	24	11	24	16
	3	6	72	26	7	27	20
	4	6	74	18	7	22	19
	5	4	79	6	6	17	16
	6	—	36	—	—	10	0

※「—」は欠測



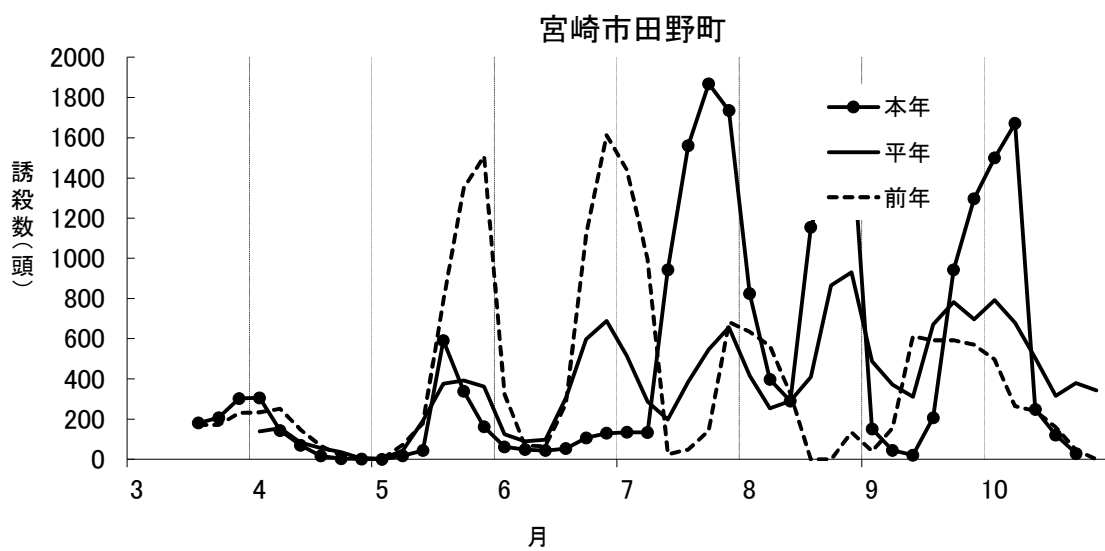
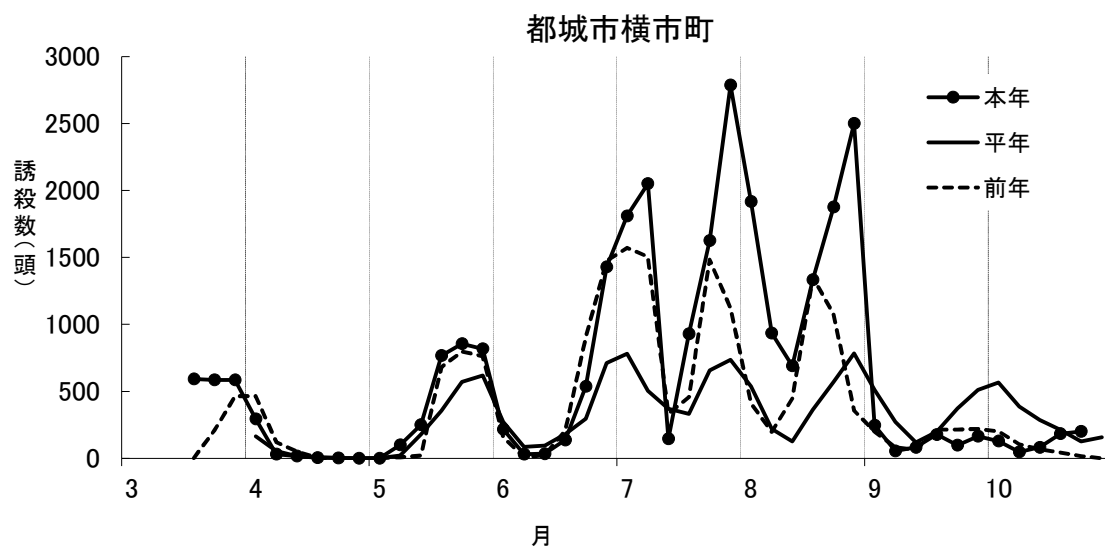
チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

(3) チャノホソガの誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	都城市(横市町)			宮崎市(田野町)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1						
	2						
	3						
	4	591		2	181		171
	5	586		210	207		171
	6	585		465	303		231
4	1	295	164	464	306	138	234
	2	31	56	120	144	156	252
	3	16	17	50	70	83	148
	4	5	9	3	18	56	67
	5	1	4	0	3	35	18
	6	0	0	0	1	5	5
5	1	1	1	0	1	3	2
	2	100	22	8	18	44	73
	3	249	177	21	44	192	180
	4	766	355	681	591	376	789
	5	855	571	797	339	392	1,348
	6	818	617	763	162	361	1,508
6	1	216	273	158	61	124	326
	2	30	85	6	49	89	68
	3	35	95	23	44	97	66
	4	138	181	209	54	307	275
	5	536	296	909	106	598	1,119
	6	1,427	711	1,473	130	688	1,612
7	1	1,810	782	1,571	135	514	1,439
	2	2,050	505	1,506	134	287	994
	3	145	370	333	943	198	25
	4	930	330	457	1,561	386	48
	5	1,627	657	1,483	1,868	546	142
	6	2,786	734	1,122	1,736	655	683
8	1	1,917	537	412	824	416	635
	2	935	219	198	398	254	563
	3	690	127	446	291	290	327
	4	1,332	363	1,352	1,155	410	—
	5	1,876	570	1,073	1,466	864	—
	6	2,499	782	355	1,637	930	134
9	1	246	510	199	151	489	41
	2	54	271	84	46	372	156
	3	83	119	62	21	312	612
	4	177	198	214	207	671	592
	5	98	371	214	943	782	592
	6	165	511	221	1,297	698	570
10	1	127	565	201	1,500	792	497
	2	46	387	104	1,671	678	264
	3	82	284	68	249	503	241
	4	183	212	42	121	317	160
	5	201	126	16	29	380	46
	6	—	158	0	—	344	0

※「—」は欠測



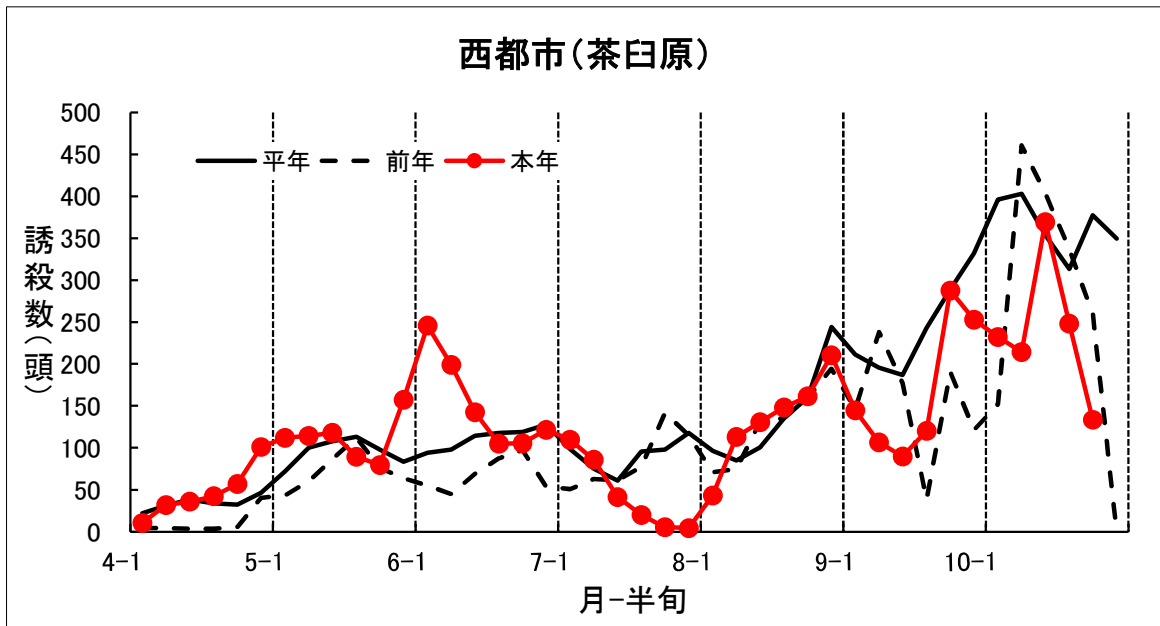
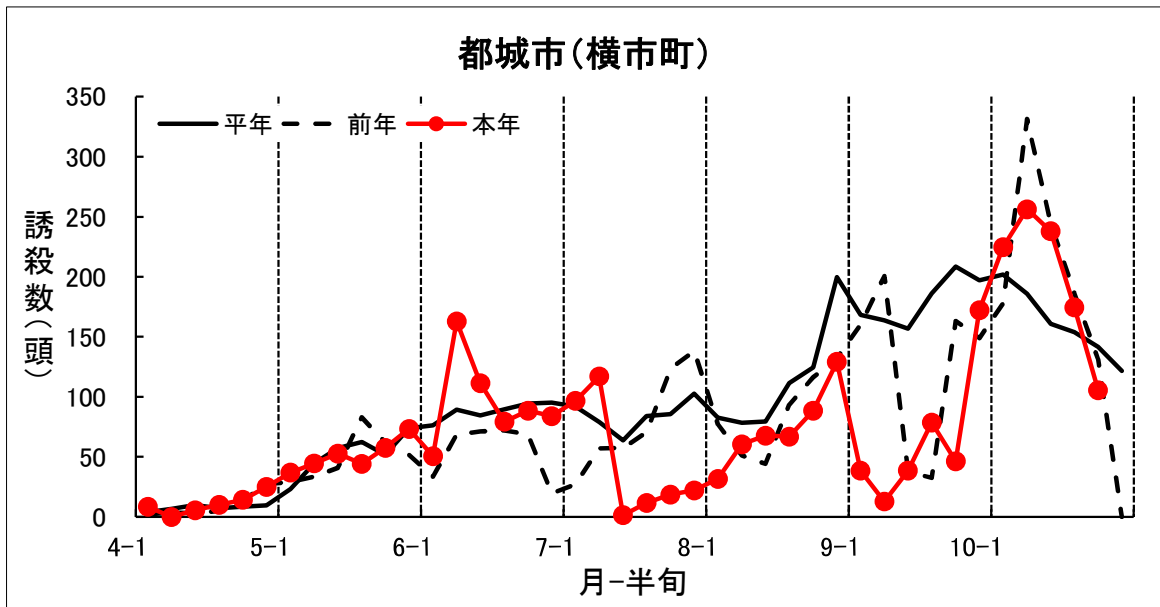
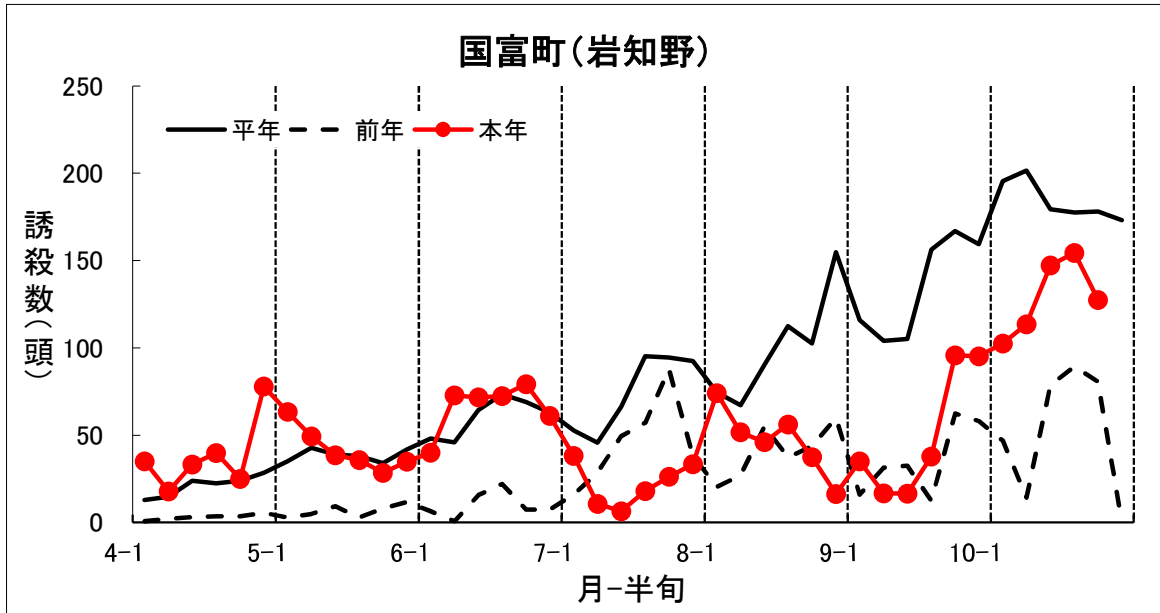
チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

(4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	国富町 (岩知野)			都城市 (横市町)			西都市 (茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	35	12.8	1	9	4.1	2	11	22.2	4
	2	18	14.8	2	0	6.5	4	32	31.0	4
	3	33	23.9	3	6	10.1	3	36	38.6	3
	4	40	22.4	4	10	7.3	5	42	34.0	3
	5	25	24.0	4	14	8.6	14	57	32.2	6
	6	78	28.4	6	25	9.7	28	101	46.2	40
5	1	63	35.0	3	37	23.4	29	112	72.1	44
	2	49	42.8	5	45	44.7	33	114	100.1	60
	3	39	38.9	9	53	57.4	41	118	107.9	86
	4	36	38.0	3	44	62.4	83	89	113.1	112
	5	28	34.1	8	58	51.6	62	80	97.9	76
	6	35	41.9	12	73	73.8	52	157	83.5	64
6	1	40	48.1	6	51	76.2	34	246	93.9	55
	2	73	45.8	1	163	89.3	69	199	98.0	45
	3	72	64.5	16	111	84.6	71	143	114.4	69
	4	72	73.4	22	79	89.4	72	105	117.7	87
	5	79	68.9	8	89	94.3	69	106	119.1	97
	6	61	62.8	8	84	95.2	19	122	127.6	54
7	1	38	52.9	16	97	92.0	27	110	98.5	51
	2	11	45.8	29	117	78.8	57	86	75.1	63
	3	6	66.2	49	1	63.7	57	41	60.9	61
	4	18	95.1	57	12	84.1	70	20	95.5	77
	5	26	94.5	88	19	85.6	124	5	98.0	142
	6	33	92.6	38	22	102.6	138	4	117.6	115
8	1	74	74.6	20	32	82.6	77	43	96.3	71
	2	52	67.2	27	61	78.5	51	113	85.1	75
	3	46	90.5	55	68	79.6	44	131	100.4	131
	4	56	112.5	37	67	111.4	93	148	135.6	135
	5	37	102.7	44	89	124.4	116	161	160.1	160
	6	16	154.8	60	129	199.6	132	210	244.3	194
9	1	35	115.8	16	39	168.4	160	145	211.4	146
	2	17	104.0	31	13	163.8	201	107	195.5	238
	3	17	105.2	33	39	156.9	37	90	187.0	177
	4	38	156.3	13	79	186.1	33	120	243.1	38
	5	96	166.9	63	46	208.5	163	288	289.2	191
	6	95	159.4	58	172	197.1	149	253	332.1	121
10	1	102	195.6	47	225	202.0	178	232	396.1	152
	2	114	201.6	14	256	185.8	331	214	403.2	461
	3	147	179.3	79	238	160.8	245	369	353.5	404
	4	154	177.6	89	174	154.0	186	248	313.5	337
	5	127	178.0	81	106	141.6	131	134	377.7	259
	6	—	173.2	24	—	121.8	13	—	349.8	74

※ 「—」は欠測



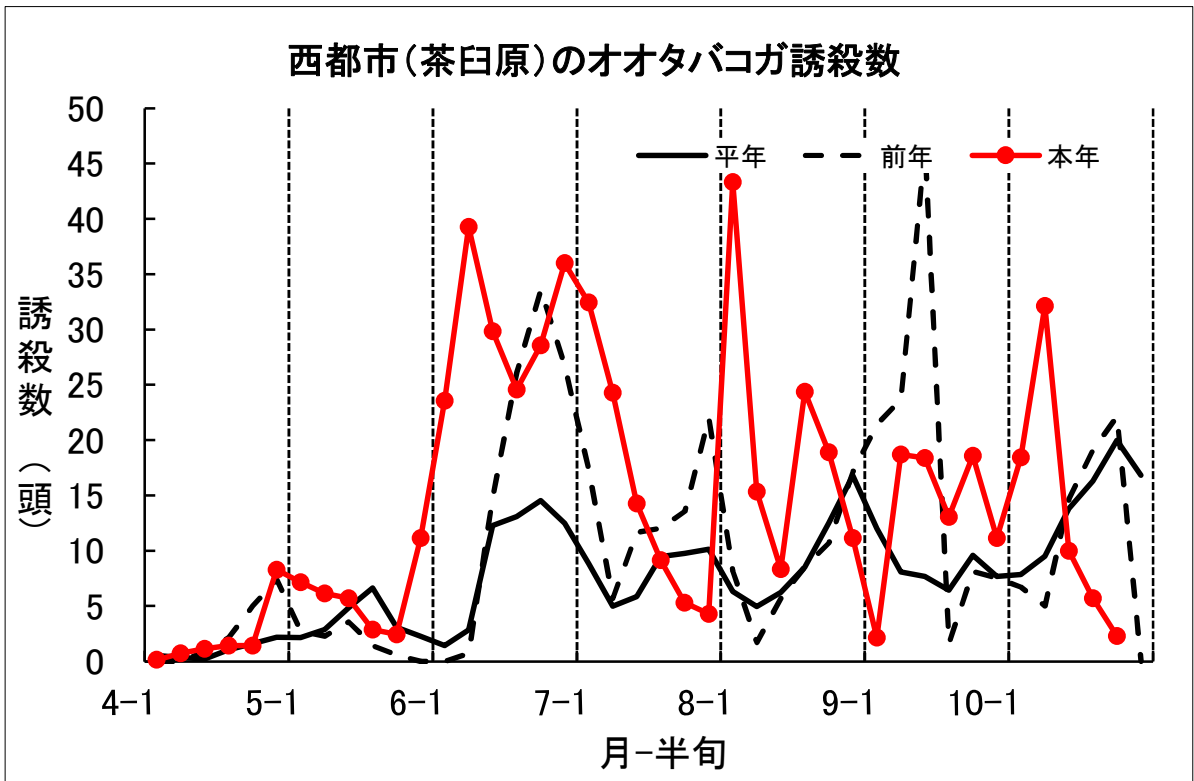
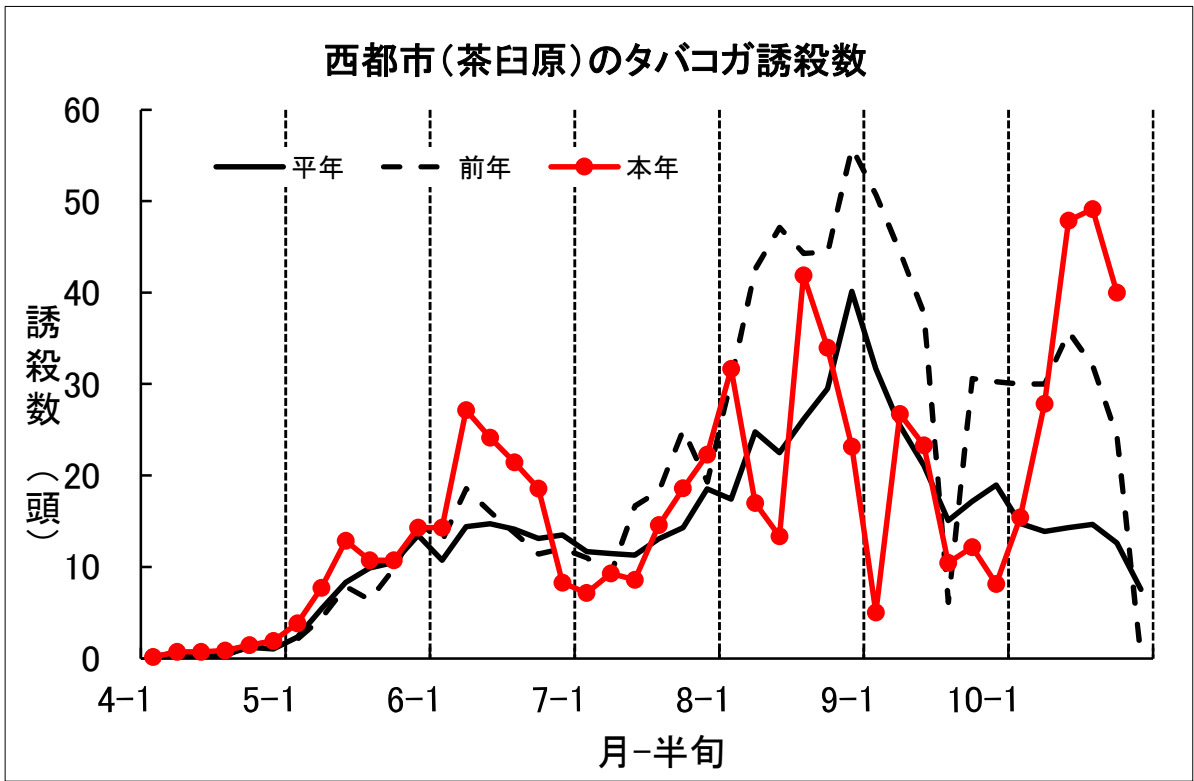
ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

(5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

(単位:頭)

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.2	0	0	0.5	0
	2	1	0.2	1	1	0.4	0
	3	1	0.2	0	1	0.2	1
	4	1	0.4	0	1	1.0	2
	5	1	1.2	1	1	1.6	5
	6	2	1.0	2	8	2.2	7
5	1	4	2.3	2	7	2.1	3
	2	8	5.4	4	6	2.9	2
	3	13	8.3	8	6	4.8	4
	4	11	9.9	6	3	6.6	1
	5	11	10.5	10	2	3.1	1
	6	14	13.4	15	11	2.3	0
6	1	14	10.7	13	24	1.4	0
	2	27	14.4	19	39	2.8	1
	3	24	14.7	16	30	12.3	15
	4	21	14.1	14	25	13.1	26
	5	19	13.1	11	29	14.5	34
	6	8	13.5	12	36	12.5	27
7	1	7	11.7	11	32	8.8	17
	2	9	11.4	9	24	5.0	6
	3	9	11.3	17	14	5.9	12
	4	15	13.1	18	9	9.5	12
	5	19	14.3	25	5	9.7	14
	6	22	18.5	19	4	10.1	22
8	1	32	17.4	31	43	6.3	8
	2	17	24.8	43	15	4.9	2
	3	13	22.5	47	8	6.2	6
	4	42	26.1	44	24	8.5	9
	5	34	29.5	44	19	12.5	11
	6	23	40.1	56	11	16.8	17
9	1	5	31.7	51	2	12.0	21
	2	27	25.5	44	19	8.1	24
	3	23	21.1	38	18	7.7	47
	4	10	15.1	6	13	6.4	2
	5	12	17.2	31	19	9.6	8
	6	8	18.9	30	11	7.7	8
10	1	15	14.7	30	18	7.8	7
	2	28	13.9	30	32	9.5	5
	3	48	14.3	36	10	13.8	15
	4	49	14.6	32	6	16.3	19
	5	40	12.6	24	2	20.0	22
	6	—	7.5	—	—	16.8	—

※ 「—」は欠測
フェロモントラップ設置地点: 西都市茶臼原



タバコガ、オオタバコガのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

(6) コブノメイガの誘殺状況

(単位：頭)

	6 月			7 月			8 月		
	都城市	えびの市	佐土原町	都城市	えびの市	佐土原町	都城市	えびの市	佐土原町
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	1	0	0
13	0	0	0	0	1	0	6	0	0
14	0	0	0	0	1	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	2	0	7	0	0
16	0	0	0	0	0	0	3	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	1	0
18	0	0	0	0	0	0	1	0	0
19	0	0	0	0	0	0	2	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	1
半旬計	0	0	0	0	0	0	6	1	1
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	1	0	0	/	/	0
23	0	0	0	1	0	0	/	/	2
24	0	0	0	2	0	1	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	4	0	1	/	/	2
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	0	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	0	/	/	0
30	0	0	0	0	0	0	/	/	0
31	/	/	/	0	0	0	/	/	1
半旬計	0	0	0	0	0	0	/	/	1
月計	0	0	0	4	2	1	13	1	5

7)果樹カメムシ類の誘殺状況

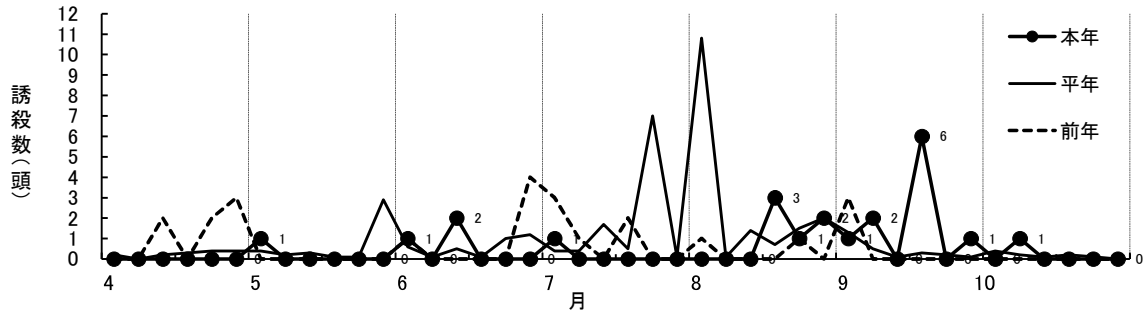
(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

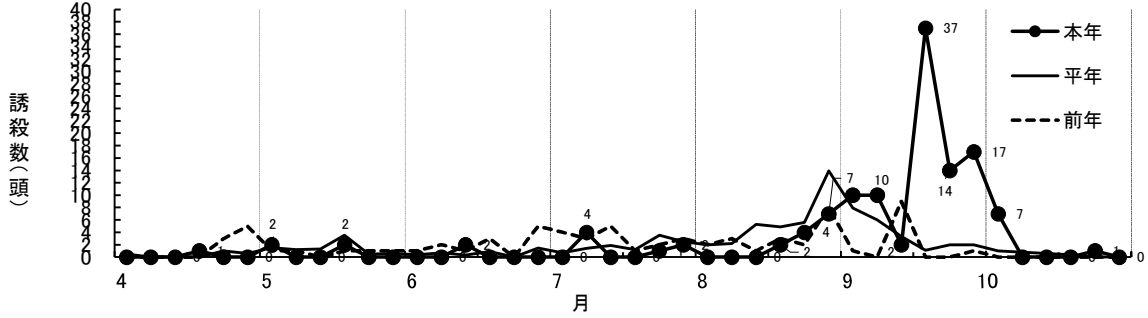
月	半旬	宮崎市(総合農試)			国 富 町			延 岡 市			都 城 市			日 南 市		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.2	0	0	0.5	0	0	0.2	0	0	0	0	0	1.1	0
	2	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.2	2	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	1	0	0	0
	4	0	0.3	0	1	0	0	0	0.5	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	5	0	0.4	2	0	1.0	3	0	0.5	3	0	0.3	1	0	0.1	1
	6	0	0.4	3	0	0.6	5	0	3.9	36	0	0.4	4	0	0.2	2
5	1	1	0.4	0	2	1.5	1	0	3.4	12	0	0.5	1	0	0.2	2
	2	0	0.2	0	0	1.2	1	1	1.3	6	1	0.8	1	0	0.3	1
	3	0	0.3	0	0	1.3	0	0	4.5	6	0	0.9	1	0	0.3	1
	4	0	0.1	0	2	3.5	1	0	7.6	0	0	1.8	0	0	0.1	0
	5	0	0.1	0	0	0.5	1	0	1.4	7	0	0.4	0	0	0.1	0
	6	0	2.9	0	0	0.6	1	0	0.7	1	0	0.1	0	0	0.3	1
6	1	1	0.6	1	0	0.4	1	1	0.4	0	1	0.1	0	0	0.3	0
	2	0	0.1	0	0	0.7	2	0	1.4	5	0	0.5	0	0	0.1	0
	3	2	0.5	0	2	0	1	0	0.8	0	0	0.5	0	0	0.6	0
	4	0	0.1	0	0	0.9	3	0	0.7	4	0	0.7	0	1	0.9	2
	5	0	1.0	0	0	0	0	0	1.6	10	0	0.5	2	1	1.5	7
	6	0	1.2	4	0	1.4	5	0	1.3	4	0	0.7	1	1	3.1	9
7	1	1	0.4	3	0	0.7	4	0	1.1	2	0	2.1	14	1	3.5	4
	2	0	0.4	1	4	1.4	3	0	6.3	7	0	15.9	19	5	3.1	5
	3	0	1.7	0	0	1.9	5	0	13.9	5	0	1.3	0	7	4.8	1
	4	0	0.5	2	0	1.2	1	0	5.6	10	0	1.4	0	6	4.8	6
	5	0	7.0	0	1	3.5	2	0	9.6	25	1	2.1	2	0	4.6	5
	6	0	0.1	0	2	2.5	3	0	6.4	15	0	1.3	5	0	7.2	12
8	1	0	10.8	1	0	2.0	2	0	5.7	35	1	2.3	11	3	4.7	8
	2	0	0.1	0	0	2.2	3	0	5.3	7	1	2.3	1	2	9.2	4
	3	0	1.4	0	0	5.3	1	2	9.5	2	17	2.8	4	40	12.9	0
	4	3	0.7	0	2	4.9	3	2	9.1	10	26	4.3	18	17	16.1	21
	5	1	1.5	1	4	5.6	2	2	19.5	9	33	4.2	8	10	17.4	59
	6	2	2.0	0	7	13.9	8	5	24.1	1	22	5.2	5	6	14.9	22
9	1	1	1.3	3	10	7.9	1	18	17.9	3	11	3.7	8	8	10.0	16
	2	2	0.5	0	10	6.0	0	34	13.0	2	5	2.3	1	2	7.2	5
	3	0	0.1	0	2	3.3	9	26	7.6	1	46	0.8	2	2	4.1	3
	4	6	0.3	0	37	1.1	0	32	4.0	0	42	0.7	0	7	4.0	0
	5	0	0.2	0	14	2.0	0	9	6.1	1	6	2.0	6	7	4.2	0
	6	1	0.1	0	17	2.0	1	9	1.5	0	8	2.2	0	4	3.7	2
10	1	0	0.4	0	7	1.0	0	0	1.8	0	2	1.2	1	2	3.9	7
	2	1	0.2	0	0	0.8	0	1	1.1	0	1	0	0	0	5.8	0
	3	0	0.1	0	0	0.6	0	0	0.5	0	0	0.1	0	2	2.3	4
	4	0	0.2	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.1	0	1	0.7	3
	5	0	0.1	0	1	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0	-	0.6	0
	6	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0
合計		22	39.1	23	125	84.7	73	143	200.3	229	224	66.9	117	135	159.3	213

※「-」は欠測

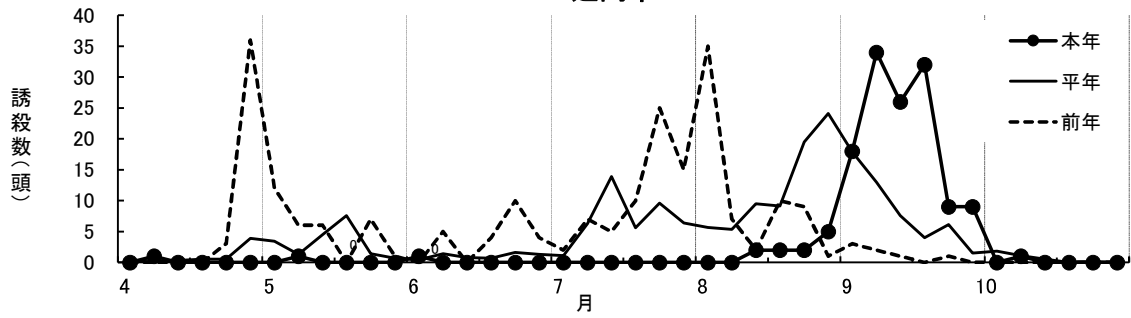
宮崎市(総合農試)



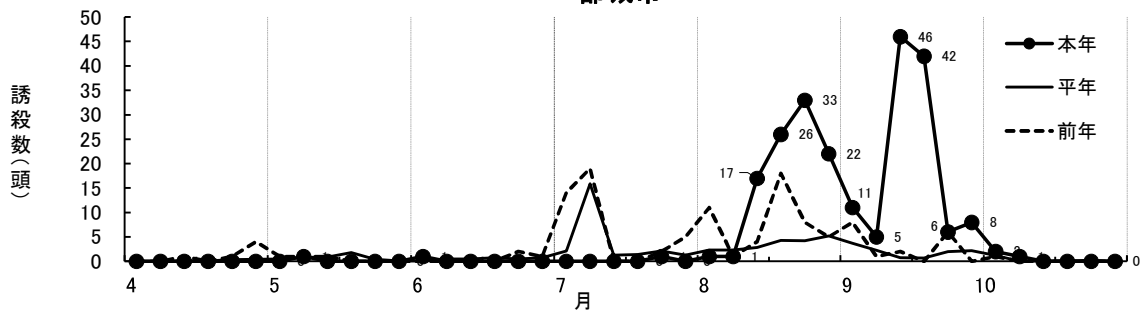
国富町



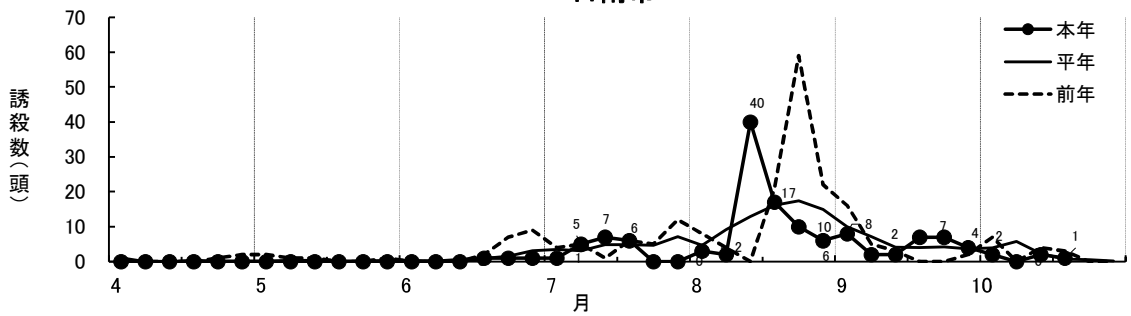
延岡市



都城市



日南市



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺状況 (2023年)

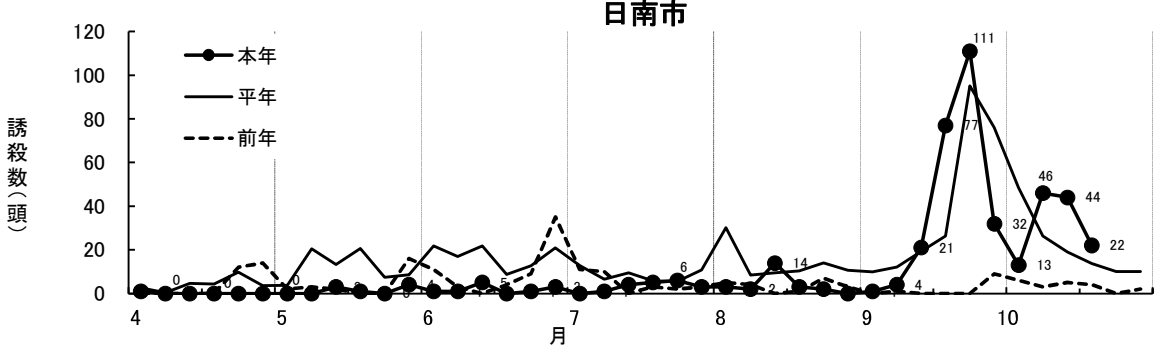
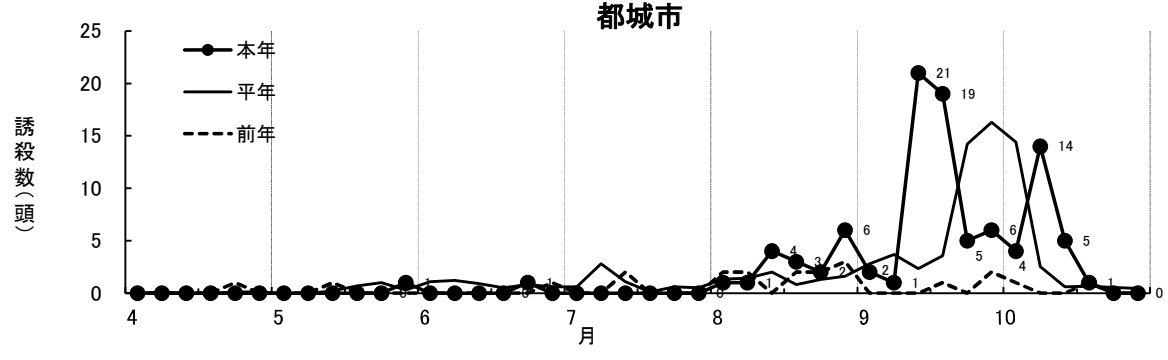
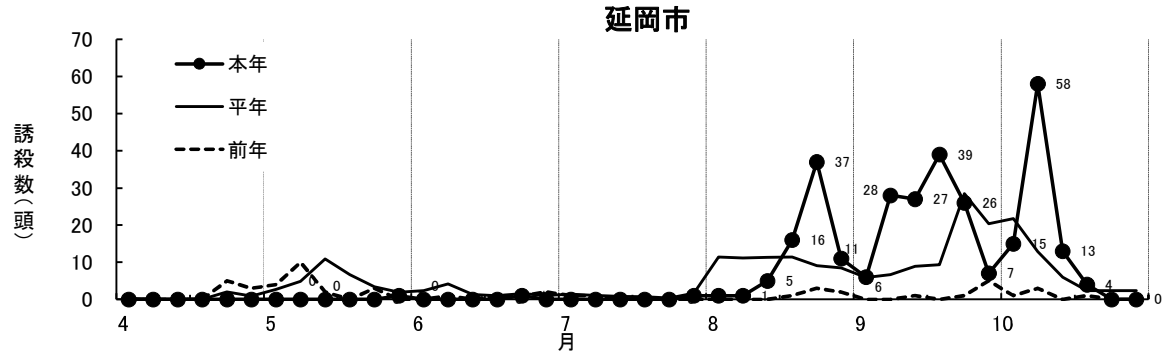
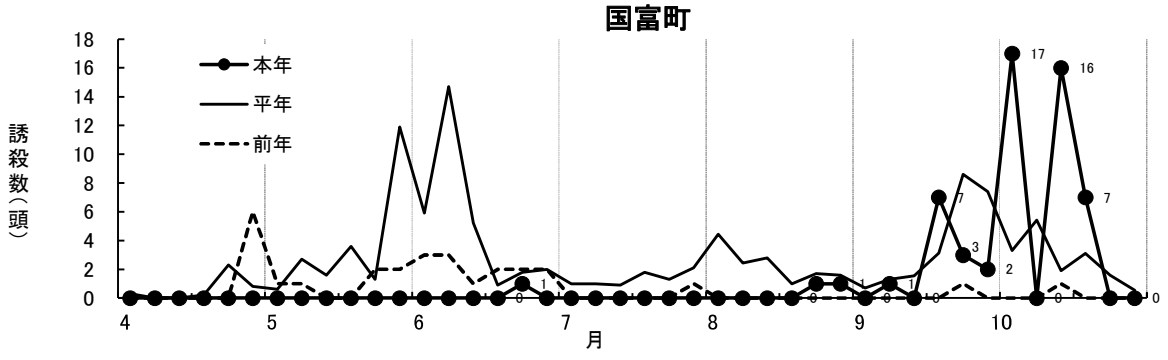
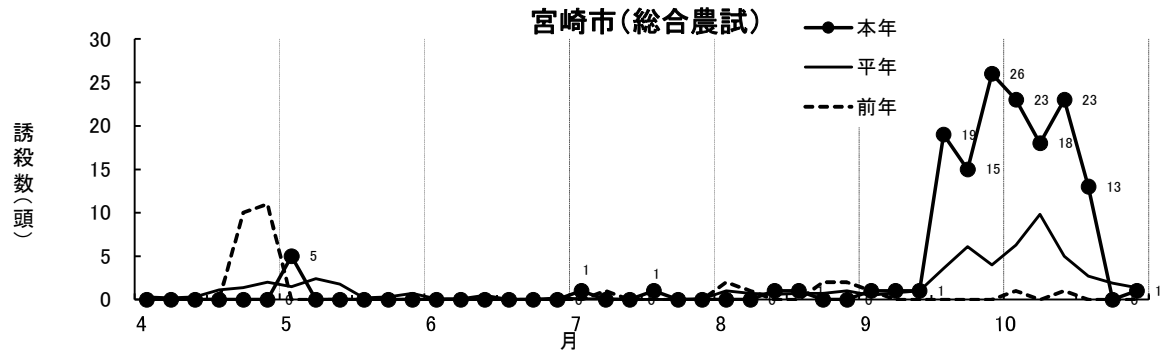
7)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	宮崎市(総合農試)			国 富 町			延 岡 市			都 城 市			日 南 市		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.3	0	0	0.3	0	0	0.33	0	0	0	0	1	2.5	0
	2	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	3	0	0.3	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	4.6	0
	4	0	1.1	0	0	0.2	0	0	0.1	0	0	0	0	0	4.3	0
	5	0	1.4	10	0	2.3	0	0	2.0	5	0	0.1	1	0	9.7	12
	6	0	2.0	11	0	0.8	6	0	0.9	3	0	0.1	0	0	3.5	14
5	1	5	1.5	0	0	0.6	1	0	2.7	4	0	0	0	0	3.7	2
	2	0	2.4	0	0	2.7	1	0	4.8	10	0	0	0	20.4	3	
	3	0	1.8	0	0	1.6	0	0	10.9	2	0	0.2	1	3	13.3	2
	4	0	0.2	0	0	3.6	0	0	6.7	0	0	0.7	0	1	20.6	0
	5	0	0.3	0	0	1.3	2	0	3.4	3	0	1.0	0	0	7.4	0
	6	0	0.7	0	0	11.9	2	1	1.9	0	1	0.3	0	4	8.6	16
6	1	0	0.1	0	0	5.9	3	0	2.4	0	0	1.1	0	1	21.8	11
	2	0	0.1	0	0	14.7	3	0	4.2	1	0	1.2	0	1	17.0	3
	3	0	0.5	0	0	5.2	1	0	1.3	0	0	0.9	0	5	21.7	0
	4	0	0	0	0	0.9	2	0	1.0	1	0	0.5	0	0	8.7	4
	5	0	0	0	1	1.8	2	1	1.6	1	1	0.8	0	1	12.7	9
	6	0	0.2	0	0	2.0	2	0	1.1	2	0	0.6	1	3	20.8	35
7	1	1	0.1	0	0	1.0	0	0	1.4	1	0	0.6	0	0	12.8	11
	2	0	0.1	1	0	1.0	0	0	1.1	1	0	2.8	0	1	6.5	10
	3	0	0	0	0	0.9	0	0	0.8	0	0	1.1	2	4	9.5	0
	4	1	0	0	0	1.8	0	0	0.7	0	0	0.1	0	5	5.9	3
	5	0	0	0	0	1.3	0	0	0.4	0	0	0.6	0	6	5.6	2
	6	0	0.1	0	0	2.1	1	1	1.7	0	0	0.5	0	3	10.8	3
8	1	0	1.0	2	0	4.4	0	1	11.4	0	1	1.3	2	3	30.1	5
	2	0	0.7	1	0	2.4	0	1	11.1	0	1	1.4	2	2	8.5	4
	3	1	0.6	0	0	2.8	0	5	11.3	0	4	2.0	0	14	9.4	0
	4	1	0.7	0	0	1.0	0	16	11.4	1	3	0.8	2	3	10.4	1
	5	0	0.7	2	1	1.7	0	37	9.1	3	2	1.3	2	2	14.0	7
	6	0	1.0	2	1	1.6	0	11	8.5	2	6	1.6	3	0	10.6	3
9	1	1	0.5	1	0	0.7	0	6	5.9	0	2	2.8	0	1	9.9	0
	2	1	0.8	0	1	1.3	0	28	6.7	0	1	3.7	0	4	12.1	1
	3	1	1.0	0	0	1.6	0	27	8.9	1	21	2.3	0	21	19.3	0
	4	19	3.6	0	7	3.1	0	39	9.3	0	19	3.6	1	77	26.3	0
	5	15	6.1	0	3	8.6	1	26	28.5	1	5	14.2	0	111	95.1	0
	6	26	4.0	0	2	7.4	0	7	20.4	5	6	16.3	2	32	76.1	9
10	1	23	6.3	1	17	3.3	0	15	21.7	1	4	14.4	1	13	48.5	6
	2	18	9.8	0	0	5.4	0	58	12.9	3	14	2.5	0	46	26.3	3
	3	23	5.0	1	16	1.9	1	13	6.0	0	5	0.6	0	44	19.0	5
	4	13	2.7	0	7	3.1	0	4	2.3	1	1	0.7	1	22	13.6	4
	5	0	1.9	0	0	1.6	0	0	2.3	0	0	0.6	0	-	10.1	0
	6	1	1.4	-	0	0.6	0	0	2.3	0	0	0.4	0	-	10.1	2
合計		150	61.2	32	56	116.4	28	297	241.7	52	97	83.8	21	434	702.1	190

※「-」は欠測



ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺状況 (2023年)

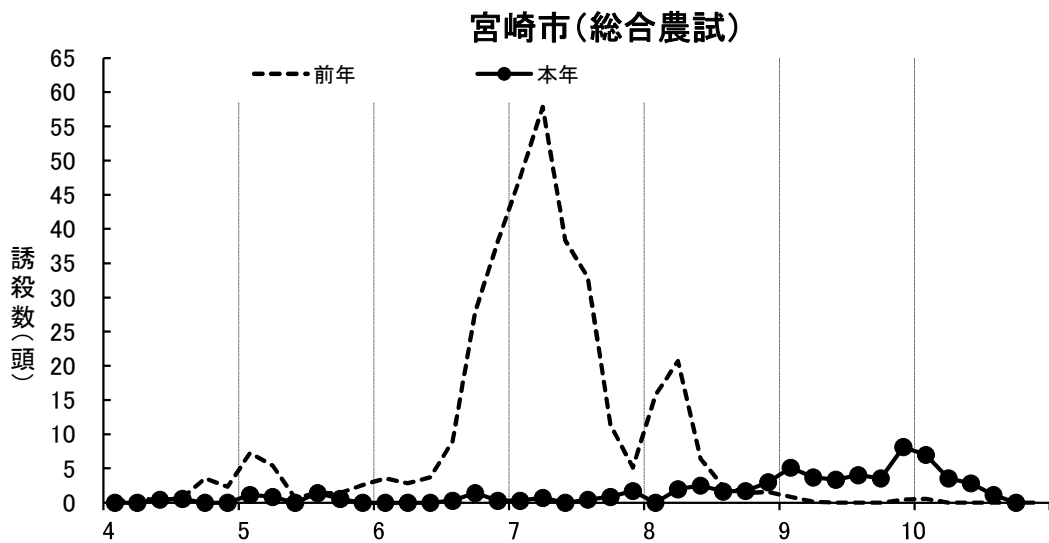
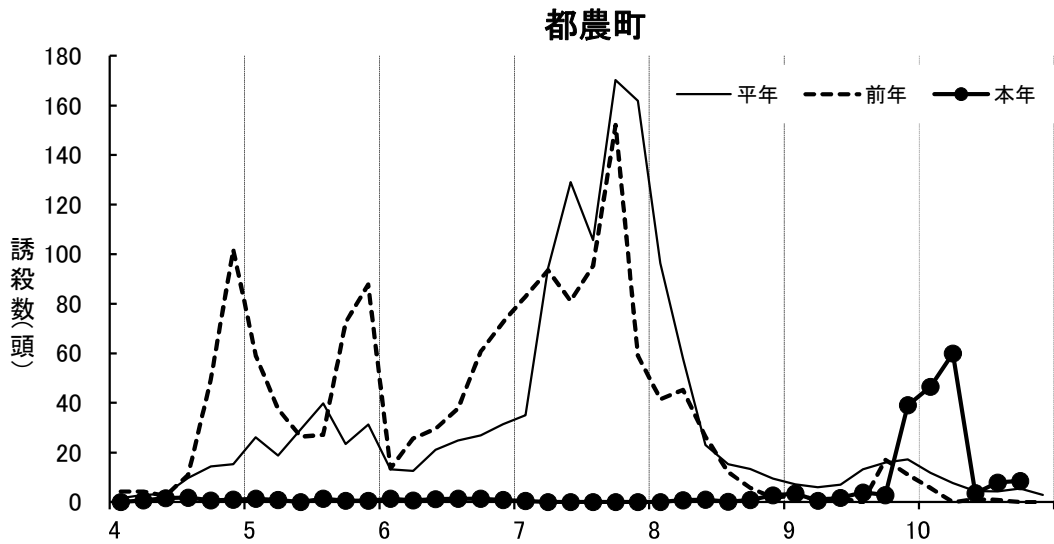
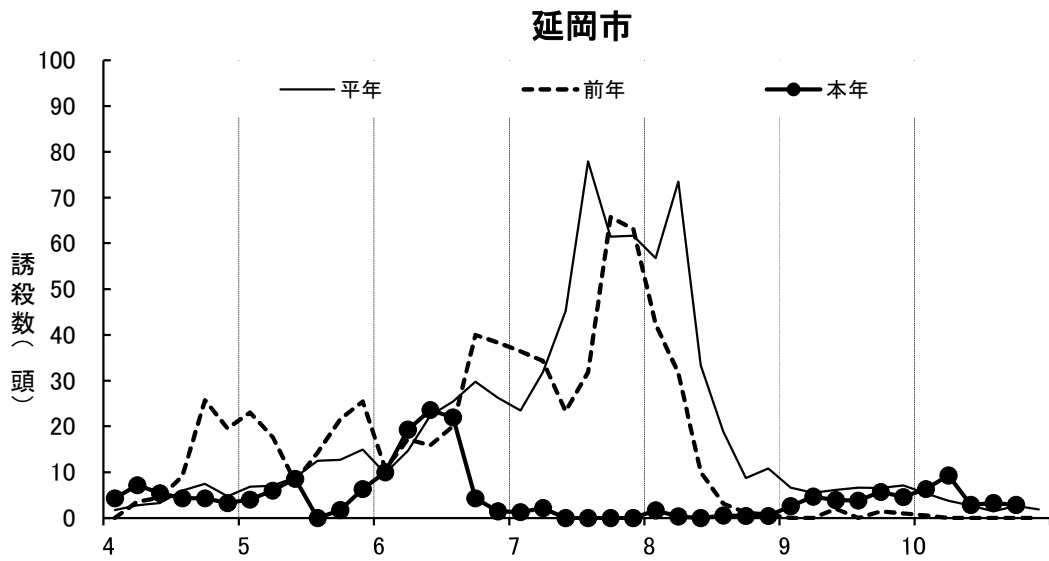
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

① チャバネアオカメムシ

※総合農試はH28(2016)年から開始

月	半旬	延岡市			都農町			宮崎市(総合農試)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	4	1.7	0	0	1.7	4	0		0
	2	7	2.8	4	1	2.9	4	0		1
	3	5	3.3	4	2	3.3	3	0		0
	4	4	6.0	9	2	9.8	11	1		1
	5	4	7.4	26	1	14.4	49	0		4
	6	3	4.7	20	1	15.4	102	0		2
5	1	4	6.8	23	1	26.2	59	1		7
	2	6	7.0	18	1	18.8	38	1		5
	3	9	8.9	8	0	29.3	26	0		1
	4	0	12.4	14	1	39.9	27	1		1
	5	2	12.7	22	1	23.4	73	1		1
	6	6	14.9	25	1	31.3	88	0		3
6	1	10	9.8	11	1	13.2	14	0		4
	2	19	14.7	17	1	12.5	26	0		3
	3	24	22.4	16	1	21.1	30	0		4
	4	22	25.4	20	1	24.8	38	0		9
	5	4	29.8	40	1	26.9	61	1		28
	6	1	26.3	38	1	31.4	73	0		38
7	1	1	23.5	36	0	35.1	83	0		48
	2	2	31.9	34	0	94.2	94	1		58
	3	0	45.2	23	0	129.1	81	0		38
	4	0	77.9	32	0	105.7	95	0		33
	5	0	61.4	66	0	170.2	152	1		11
	6	0	61.6	63	0	161.8	59	2		5
8	1	2	56.7	42	0	96.4	41	0		16
	2	0	73.5	32	1	57.9	45	2		21
	3	0	33.3	10	1	23.0	26	3		6
	4	1	18.9	3	0	15.3	12	2		2
	5	0	8.7	1	1	13.4	6	2		1
	6	0	10.9	1	3	9.5	2	3		2
9	1	—	6.7	0	—	7.1	3	—		1
	2	—	5.5	0	—	6.1	1	—		0
	3	4	6.2	2	2	7.0	1	3		0
	4	4	6.6	—	4	13.1	—	4		
	5	6	6.5	1	3	15.9	17	4		0
	6	5	7.1	1	39	17.2	11	8		0
10	1	6	5.4	1	47	11.8	6	7		1
	2	9	3.7	0	60	7.7	0	4		0
	3	3	2.7	0	4	4.4	1	3		0
	4	3	1.5	0	8	4.3	1	1		0
	5	3	2.6	0	9	5.4	0	0		0
	6	—	1.9	0	—	2.9	0	—		0
計		185	776.8	663	198	1360.9	1,462	56		355

※「—」は欠測



チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数 (2023年)

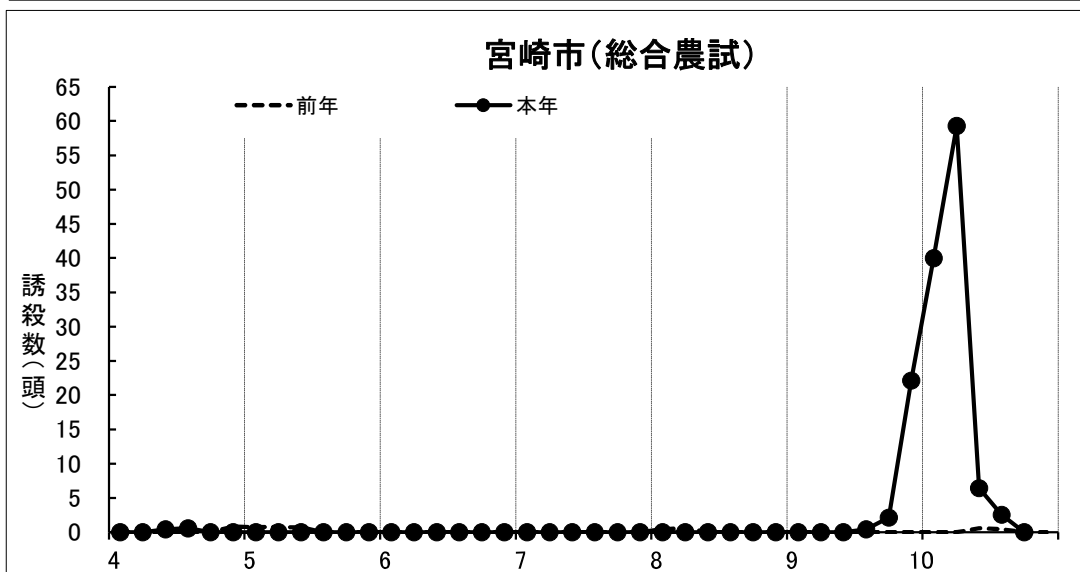
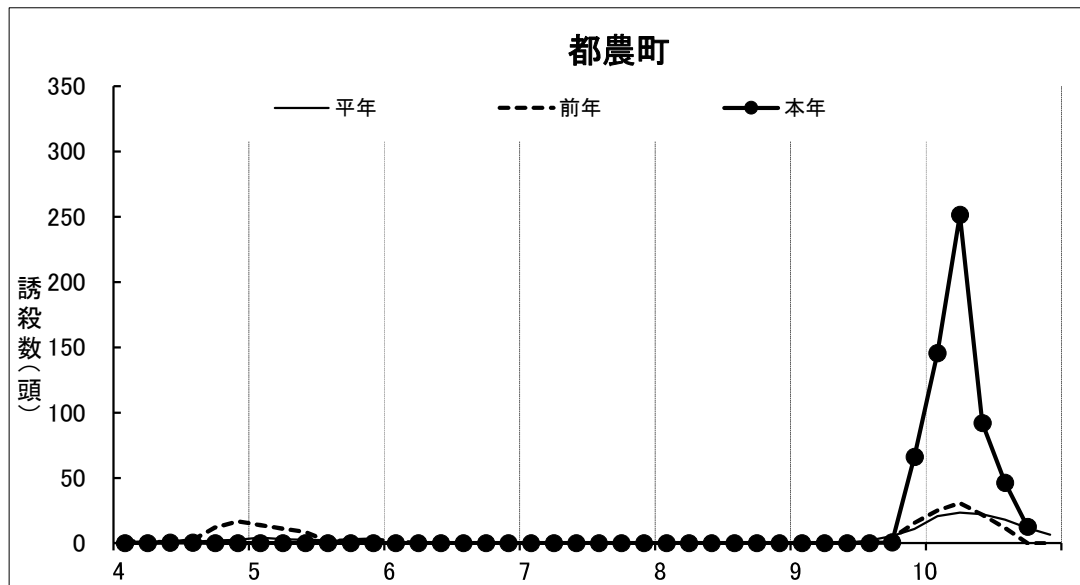
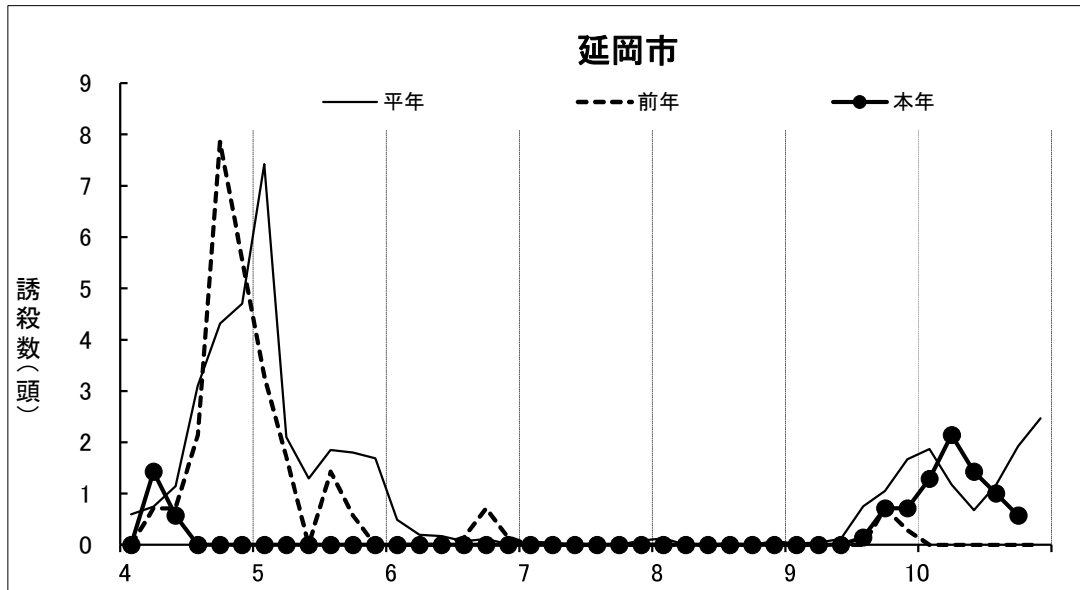
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

② ツヤアオカメムシ

※総合農試はH28(2016)年から開始

月	半旬	延岡市			都農町			宮崎市(総合農試)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.6	0	0	0.6	1	0		0
	2	1	0.7	1	0	1.4	1	0		0
	3	1	1.1	1	0	0.8	1	0		0
	4	0	3.1	2	1	1.1	2	1		0
	5	0	4.3	8	0	2.1	12	0		0
	6	0	4.7	6	0	2.7	17	0		1
5	1	0	7.4	3	0	4.2	14	0		1
	2	0	2.1	2	0	3.1	11	0		1
	3	0	1.3	0	0	2.6	9	0		1
	4	0	1.9	1	0	2.2	1	0		0
	5	0	1.8	1	0	1.5	2	0		0
	6	0	1.7	0	0	1.2	3	0		0
6	1	0	0.5	0	0	0.5	1	0		0
	2	0	0.2	0	0	0.1	0	0		0
	3	0	0.2	0	0	0.1	0	0		0
	4	0	0.1	0	0	0.1	0	0		0
	5	0	0.1	1	0	0.1	0	0		0
	6	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
7	1	0	0.1	0	0	0.0	0	0		0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.1	0	0		0
	4	0	0.0	0	0	0.1	0	0		0
	5	0	0.0	0	0	0.1	0	0		0
	6	0	0.1	0	0	0.3	0	0		0
8	1	0	0.1	0	0	0.3	0	0		0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0		1
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	4	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	5	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	6	0	0.1	0	0	0.0	0	0		0
9	1	—	0.0	0	—	0.1	0	—		0
	2	—	0.0	0	—	0.2	0	—		0
	3	0	0.1	0	0	0.3	0	0		0
	4	0	0.8	—	0	2.1	—	0		0
	5	1	1.1	1	1	5.6	4	2		0
	6	1	1.7	0	66	10.9	16	22		0
10	1	1	1.9	0	146	20.7	25	40		0
	2	2	1.2	0	251	23.4	31	59		0
	3	1	0.7	0	92	22.1	22	6		1
	4	1	1.2	0	46	18.0	12	3		0
	5	1	1.9	0	13	11.7	0	0		0
	6	—	2.5	0	—	6.5	0	—		0
計		10	45.1	26	616	146.7	184	134		5

※「—」は欠測



ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況 (2023年)

7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: やや少	1,167ha	初発は6月6日に確認された(平年5/28、前年5/25)。6月下旬の発生面積率は30.2%(平年35.8%)、発病度は3.6(平年3.4)でいずれも平年並の発生であり、山際等の一部は場では多発生が確認された。	6月中旬～下旬は、いもち病に好適な気象条件が続いたことから、穂いもちの発生が増加したが、それ以外は、好適条件日は比較的小さく、適期防除が行われたものとみられる。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
		平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや少	2,354ha	7月中旬の発生面積率は42.4%(平年29.9%)で平年並、発病率は1.6%(平年0.9%)で平年比ややや多の発生であった。	穂揃い期に防除。	穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: やや早い	平年: やや少 前年: やや少	339ha	6月下旬から発生が確認され、発生面積率・発病度いずれも調査期間を通して平年並で推移した。	6月下旬にかけて、高温傾向が続いたが、晴れ間が多かったことから、比較的適期防除が行われたものとみられる。	穂揃い期に防除。
	イネミズウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	3,697ha	4～5月の発生面積率及び発生程度(被害度、百株虫数)はいずれも平年並で推移した。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	2,021ha	4月中旬の発生面積率及び発生程度(m ² 当たり貝数)はいずれも平年比少であった。5月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比ややや多の発生であった。一部のほ場では食害・穴株が確認された。	冬季に寒波の影響を断続的に受けたため、越冬生貝が近年に比べ減少したと推測される。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起及び石灰窒素の散布。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	2,187ha	6月中旬～下旬にかけて、発生面積率は平年並、発生程度(20回振り虫数)は平年並～やや多で、一部のほ場では多発生が確認されるなどやや増加傾向にあったが、7月中旬は、発生面積率及び発生程度はいずれも平年比少の発生であった。	一部で発生が多い地域がみられたが、6月下旬～7月にかけて、晴れ間が多かったことから、比較的適期防除が行われたものとみられる。	穂揃い期とその7～10日後の2回防除を徹底。
	葉いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	4,214ha	本田での発生は7月中旬から確認された。7月中旬～8月中旬までは平年並～少の発生で推移した。8月下旬に発生がやや増加し、発生面積率は45.9%(平年36.3%)で平年比ややや多、発病度は2.4(平年2.7)で平年並の発生であった。	8月の長雨や台風6号(8月上旬)の接近により、8月下旬に発生がやや増加したと考えられる。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	4,461ha	9月中旬の発生面積率は48.6%(平年57.0%)、発病率は1.5%(平年1.2%)でいずれも平年並の発生であった。	—	穂ばらみ期と穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: やや多	4,702ha	本田での発生は7月下旬頃から確認された。7月以降、気温が高めで推移したことにより発生が増加し、8月下旬～9月中旬の発生面積率及び発生程度はいずれも平年比多の発生であった。	8～9月の気温が平年より高めで推移したこと、発生が助長されたと推測される。	穂ばらみ期の防除。
	もみ枯細菌病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	941ha	9月の発生面積率は平年比ややや多、発生程度(発病率)は平年並の発生であった。	—	—
内穎褐変病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	1,411ha	9月の発生面積率及び発生程度(発病率)いずれも平年並の発生であった。	—	—	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻 (続き)	セジロウウンカ	平年：並 前年：やや早い	平年：やや少 前年：やや少	5,878ha	予察灯での初誘殺は、平年よりやや早い5月30日(平年：6/5、前年：6/6)に確認され、その後断続的な誘殺が確認された。普通期本田では6月中旬から確認され、調査期間を通して平年並～やややや少の発生で推移した。	予察灯での初飛来確認以降、断続的に誘殺が確認されたが、予察灯での誘殺数は、4～9月の合計で1251頭(平年：1193.7頭、前年：798頭)で、平年並であった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビイロウンカ	平年：やや遅い 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	1,176ha	予察灯での初誘殺は、平年より遅い7月4日(平年6/14、前年4/27)に雄成虫2頭の誘殺が確認された。普通期水稻本田では、7月下旬から一部ほ場で発生が確認された。7月～9月の発生面積率及び発生程度はいずれも平年並～少で推移した。	初飛来確認以降、しばらく誘殺は確認されなかったが、6月5半旬から断続的に飛来が確認されるようになった。予察灯での誘殺数は、4月～9月の合計で37頭(平年603.7頭、前年207頭)で、平年より少なかった。また、効果の高い箱施薬剤(トリフルメゾピリム剤)が普及していることも発生が少なかつた要因として考えられる。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	ヒメトビウンカ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	8,699ha	7月中旬から確認され、7～9月の発生面積率及び発生程度(20回振り虫数)はいずれも平年並～少で推移した。	—	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	5,643ha	6月中旬から確認され、6月は発生面積率がやや多であったが、7～9月の発生面積率及び発生程度(20回振り虫数)はいずれも平年並～少で推移した。	—	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	3,292ha	フェロモントラップでの初誘殺は、7月13日(平年6月24日、前年6月11日)であった。普通期本田では7月下旬から被害が確認され、7月下旬が平年比やや多の発生で、その後8月中旬～下旬まで平年並～やや少の発生であったが、9月中旬に再び平年比やや多の発生となった。一部で被害が目立つほ場が確認された。	フェロモントラップでの誘殺数は平年より少なかったが、他県ではクオラントラニプロロール剤の感受性低下事例が報告されており、本県においても効果低下している可能性がある。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	1,403ha	6月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(被害度)は平年比多の発生であった。一部で被害が目立つほ場が確認された。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	2,467ha	6月中旬の発生面積率及び発生程度(㎡当貝数)はいずれも平年並の発生であった。	生育初期の防除の徹底の定着。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	5,453ha	8月中旬～9月中旬にかけて、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比やや多～並で推移した。一部のほ場では多発生が確認された。	8月を除き、高温・少雨傾向が続き、カメムシ類の活動に好適な条件であったと推測される。	穂揃い期とその7～10日後の防除。
	イモキバガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	1,506ha	8月中旬の発生面積率及び発生程度(被害葉率、㎡当たり虫数)はいずれも平年比やや多で、9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少であった。	—	被害初期の防除。
	ナカシロシタバ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	3,010ha	8～10月の発生面積率及び発生程度(被害葉率)はいずれも平年比やや多で推移した。	—	つる先の1～3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハマモンクウ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	3,010ha	8～10月の発生面積率及び発生程度(被害葉率)はいずれも平年比やや多で推移した。	—	他の害虫との同時防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ジャガイモ	疫病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	110ha	4月中旬は発生が確認されなかったが、5月中旬の発生面積率及び発生程度(発病度)はいずれも平年並りまたはやや多の発生であった。	-	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：やや少	0ha	発生未確認。	-	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	37ha	4月中旬の発生面積率及び発生程度(株当虫数)はいずれも平年並りまたはやや多であったが、5月中旬の発生面積率は平年並り、発生程度は平年並りまたはやや少であった。	-	幼虫分散前の防除。
	ハバモンゴウ	平年：並 前年：一	平年：多 前年：多	110ha	4月中旬は発生が確認されなかったが、5月中旬の発生面積率及び発生程度(被害葉率)はいずれも平年比多であった。	-	若齢期の防除。
	そうか病	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：多 前年：やや多	509ha	葉では5月中旬から発生が増加し、6月の発生ほ場率及び発病度はいずれも平年比多であった。果実でも、6月から発生が多くなり、8月の発生ほ場率及び発病度はいずれも平年比多であった。初発は、葉で4月18日(平年比-6日)、果実で6月7日(平年比+1日)であった。	-	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。
	黒点病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：並 前年：並	736ha	9月から発生が増加したものの、平年並りまたはやや少で推移した。初発は、果実で7月8日(平年比+10日)であった。	初発がやや遅く、梅雨期以降の降水量は、8月が多く、防除適期を逃したほ場もみられたが、各月とも平年並りまたはやや少であった。	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：並	82ha	葉、果実いずれも調査期間を通して、平年並りまたはやや少の発生で推移した。初発は、葉で6月8日(平年比+16日)、果実で7月8日(平年比+9日)であった。	新梢の剪定が不徹底の圃地で発生が多かった。ミカンハモグリガは平年並りの発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	225ha	越冬時期の生息密度は平年並りまたはやや多であった。5月から発生が増加し、5～7月の発生ほ場率は平年並り、発生程度(寄生葉率)は平年比多またはやや多であった。一部ほ場で甚多発生が確認された。	適期防除の徹底。 夏期マシン油の散布徹底。	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の運用を避ける。 冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	巡回調査において、発生は認められなかった。	適期防除の徹底。	落花期から9月までの防除。
	ミカンハモグリガ	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：並	191ha	6月から発生が確認されたが、発生量は平年比並りまたは少で推移した。7月の発生ほ場率16.7%、寄生葉率0.8%。	適期防除の不徹底。	適期防除の徹底。 新梢をだたらんと発生させないような肥培管理。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	254ha	5月から発生が確認され、7月の発生は平年比多であったが、総じて平年並りの発生であった。一部で多発生ほ場が確認された。6月の発生ほ場率16.7%、寄生新梢率1.4%であった。	5～6月の気温、降水量ともに平年並り程度であった。	新梢伸長期における薬剤防除。	
カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	573ha	予察灯調査では、ツヤアオカメムシ及びチャバネアオカメムシは4月上旬から誘殺され、ツヤアオカメムシが8月中旬と9月中旬～下旬、チャバネアオカメムシが8月中旬と9月中旬に誘殺ピークがみられた。フェロモントラップ調査では、ツヤアオカメムシが9月下旬～10月上旬、チャバネアオカメムシが6月中旬と9月下旬～10月上旬にピークがみられた。月別誘殺数は、両種とも平年並りまたは以下で推移した。果樹園への飛来は早い地域で8月上旬確認された。	ヒノキ毬果の量は平年より多い傾向。	園内の発生状況の把握に努め、飛来を確認したら直ちに防除を行う。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
茶	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	1,128ha	5月から発生量が増加し、調査期間を通して平年比多～やや多の発生で推移した。8月が発生のピークで、発生ほ場率は91.7%、発病程度(m ² 当たり発病葉数)は19.5でいずれも平年比多であった。	8月の長雨により発生が増加した。	二番茶・秋芽生育期の防除。
	もち病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	87ha	山間部の一部ほ場で7月及び10月に発生が確認された。7月の発生量は平年比やや多、10月は平年並であった。	7月の降水量は平年より少なかったが、8月は平年より多かった。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除。
	輪斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	103ha	8月に一部のほ場で発生が確認されたのみで、調査期間を通して平年並～やや少で推移した。	7月の降水量は平年より多かったが、8月は平年より多かった。	摘採直後(3日以内)の防除。 摘採機の洗浄。
	チャノコカクモンハマキ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	87ha	7月に一部のほ場で確認され、7月の発生ほ場率及び発生程度(m ² 当たり虫数)はいずれも平年比多であった。	適期防除の実施。 近年の発生は減少傾向にある。	成虫生最盛期の10～14日後が防除適期。 チャハマキとの同時防除。
	チャハマキ	平年：並 前年：一	平年：多 前年：多	95ha	6月と10月に一部ほ場で発生が確認され、いずれも発生ほ場率及び発生程度(m ² 当たり虫数)はいずれも平年比多であった。	適期防除の不徹底。	チャノコカクモンハマキとの同時防除。
	チャノホンガ	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：多 前年：やや多	702ha	4月から発生から確認され、7月に発生のピークがみられ、発生ほ場率及び発生程度(m ² 当たり虫数)はいずれも平年比多であった。一部ほ場では多発生が確認された。	適期防除の不徹底。	三角葉巻前の防除となるよう、成虫の発生最盛期の約10日後に防除する。 ただし、遅効性の脱皮阻害剤は成虫発生最盛期の5日後の産卵期に散布する。
	カンザウハダニ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	246ha	越冬後の寄生密度は平年比やや多であった。8月までは平年並～少の発生で推移したが、10月以降発生が増加し、10～11月の発生は平年比多～やや多の発生であった。	10月までは発生ピークは見られなかった。、全般的には有効薬剤の散布により発生が抑えられた。	産卵開始期(2月下旬～3月上旬)及び越冬前(10月中～下旬)の薬剤防除 同一系統薬剤の連用を避ける。
	チャノミドリヒメコバ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	568ha	5～6月の発生は平年比多～やや多で推移したが、その後9月までは平年比やや少～並で推移した。10月に再び発生が増加し、平年比やや多の発生であった。	5～6月は発生が多くなったが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：少	189ha	4月は平年比やや多の発生であったが、その後の調査期間は平年比並～少で推移した。	4月に発生がみられたが、その後は適期防除により平年並以下の発生に抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメコバとの同時防除。
	クワシロカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	718ha	6月、8月、10月に発生のピークがみられ、それぞれ平年比多～やや多の発生であった。ほ場間差が大きく、県南ほ場で盛発生ほ場もみられた。	適期防除を逸した一部ほ場で多発した。	孵化最盛期に合わせた防除。 中切り後の防除の徹底。
	チャトゲコナジラミ	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	1,054ha	4月と7月に発生のピークがみられ、その後冬場にかけて減少傾向であった。一部では多発生ほ場が確認された。	適期防除の不徹底。	若齢幼虫発生期の防除。 中切り更新等により枝葉を除去。 冬季のマシン油散布。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
令和5年度 冬春キユフリ R4.9～R5.6 (栽培期間)	べと病	平年：並 前年：やや早い	平年：やや少 前年：並	132ha	11月から発生を確認し、その後4月の調査終了時まで継続的に発生が確認された。調査期間中の発生面積積率は平年並、発生程度は平年やややや少で推移した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底。 発生初期防除の不徹底。 草勢管理。	薬剤による防除。
	灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。	薬剤による防除。
	うどんこ病	平年：やや遅い 前年：並	平年：少 前年：やや少	42ha	平年よりも遅い11月から発生を確認した。防除が不徹底であった一部のほ場で1月に豊発生が確認されたが、栽培期間をとおしての発生量は平年比少であった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底。 発生初期防除の不徹底。 草勢管理。	薬剤による防除。
	褐斑病	平年：やや早い 前年：早い	平年：やや少 前年：並	8ha	12月に一部のほ場で、わずかな発生が確認されたが、防除が徹底されたことから、3月まで発生はなかった。4月になると一部のほ場で発生が散見された。	初期防除の徹底。	初期防除の徹底。 薬剤による防除。
	ミナミキイロアザミウマ	平年：並 前年：早い	平年：やや少 前年：並	84ha	10月から一部のほ場でわずかな発生を確認した。調査期間中の発生面積・程度ともに平年比やややや少であった。例年発生が急増する3月以降も発生を抑制できた。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底。 薬剤感受性の低下。	定植時の粒剤施用。 薬剤のローテーション散布。 防虫ネットの設置。
	ハスモンヨトウ	平年：やや遅い 前年：やや早い	平年：並 前年：やや多	13ha	10月に微発生を確認し、11月と12月に平年より多い発生を確認した。薬剤防除等により、その後の発生は確認されなかった。	10月の平均気温が高かったことから、野外からの侵入量が多かった。 施設開放時の侵入防止対策等の不備。	防虫ネットの設置。 若齢期防除の実施。
	モザイク病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	早期抜根等の実施。	土壌消毒の実施。 抵抗性品種の導入。 媒介昆虫の防除。
	斑点病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：多 前年：やや多	70ha	平年よりも遅い12月から発生を確認した。1月以降、発生量が増加し、4月の調査終了時まで発生面積率及び発生程度が平年比やや多～多で推移した。	施設内の湿度管理。 初期防除の不徹底。 1月以降、平年に比べ平均気温が高く、降水量が多い日が続いた。	薬剤による防除。 施設内湿度の適正管理。 罹病葉の持ち出し。
	うどんこ病	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：少	49ha	平年よりも遅い11月から発生を確認し、3月まで平年より少ない発生であった。栽培末期の4月は発生面積率・程度ともに平年比やや多であったが、栽培期間中における発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年比少であった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除。
	灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。 罹病果の早期除去。	薬剤による防除。
令和5年度 冬春キユフリ R4.9～R5.6 (栽培期間)	ミナミキイロアザミウマ	平年：やや遅い 前年：やや早い	平年：並 前年：やや少	23ha	10月から平年よりも多い発生が確認されたが、栽培期間中における発生面積率は平年並、発生程度は平年比やややや少であった。例年発生が急増する3月以降も発生を抑制できた。	薬剤感受性の低下。 初期防除の不徹底。	防虫ネットの設置。 薬剤による防除。 天敵の導入。
	ヒラズハナアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	128ha	10月の調査開始時から発生を確認して以降、11月に急増し、その後も継続的に発生を確認した。防除情報を発出し、注意を促したが、発生を抑制できず、栽培期間をとおして平年比やや多～多の発生であった。	薬剤感受性の低下。 初期防除の不徹底。	防虫ネットの設置 薬剤による防除 天敵の導入 防除情報第9号(R5.1.26)発表

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
令和5年産 冬春いちご R4.9～R5.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年：やや遅い 前年：並	平年：並 前年：並	5ha	平年よりやや遅い1月に株での発生を確認した。2月以降も継続して発生が確認されたが、発生面積率・程度ともに平年並であった。果実での発生はごく僅かであった。	施設内管理の徹底。 草勢管理の徹底。	薬剤による防除。
	葉かび病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：やや少 前年：並	13ha	一部のほ場で10月から少発生が確認された。薬剤防除で発生をなくすことができず、4月まで継続した発生を確認した。	施設内の湿度管理。 初期防除の不徹底。	薬剤による防除。 抵抗性品種の導入。 罹病葉の持ち出し。
	黄化葉巻病	平年：— 前年：—	平年：やや少 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	抵抗性品種の導入。 罹病株除去の徹底。	媒介昆虫の防除。 罹病株の除去及び適正処分。 抵抗性品種の導入。
	タバコナジラミ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	77ha	定植直後から発生がみられ、12月には全ての調査ほ場で発生を確認した。12月に防除情報を発出し、注意を促した結果、発生面積は若干減少したが、栽培期間中における発生面積率・程度ともに平年比多であった。	侵入防止対策の不徹底。 初期防除の不徹底。	防虫ネットの設置。 薬剤による防除。 薬剤のローテーション散布。 防除情報第7号(R4.12.27)発表。
	ハモグリバエ類	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	効果の高い化学薬剤の散布。	初期防除の徹底。 薬剤による防除。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	5ha	定植直後から葉で発生がみられ、一部ほ場では果実での発生も確認された。栽培期間中の発生は発生面積率・程度ともに平年並であった。薬剤による防除と罹病部の持出しによって、3月以降は発生が確認されなかった。	定植直後の曇天。 親株床での防除の不徹底。 初期防除の不徹底。	薬剤による防除。 初期防除の徹底。 古葉、罹病葉の持ち出し。
	灰色かび病	平年：— 前年：—	平年：やや少 前年：やや少	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。	薬剤による防除。 罹病果の持ち出し。
	炭疽病	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：並	4ha	定植直後は発生が見られなかったが、12月に一部ほ場で発生が確認された。栽培期間をとおして平年並の発生であった。	育苗期間の防除の不徹底。	健全苗の選抜の徹底。 罹病株及び周辺株の除去。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	23ha	親株床での発生量は平年比やや少であった。本ほでの発生量は、11月から12月にかけて平年よりやや多い発生を確認したが、その後は平年並以下の発生であった。	育苗期の防除による本ほ持込み数の低減。 ミツバチ導入期間に殺ダニ剤の使用が困難。 天敵カブリダニ利用時に有効な殺ダニ剤の使用が制限される。	薬剤による防除。 早期発見によるスポット防除。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	5ha	9月から10月上旬の気温が平年より高かったことから、ハウスの被覆資材のかかっている時期の野外からの飛び込み量が多かったと考えられる。1月まで幼虫の発生が確認された。	初期防除の不徹底。 野外の発生量の増加および侵入量の増加。	薬剤による防除。 防虫ネットの設置。
ヒラズハナアザミウマ	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：多 前年：やや多	20ha	平年よりやや早い11月から発生を確認した。12月調査時点において発生面積率・程度ともに平年比多であったため、防除情報を発出し、注意を促したが、その後も発生量は平年比多で推移した。	初期防除の不徹底。 ミツバチ導入期間に殺虫剤の使用が困難。	薬剤による防除。 防除情報第8号(R4.12.27)発表。 防虫ネットの設置。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
令和5年産 秋冬ダイコン R4.9～R4.12 (栽培期間)	萎黄病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。	高温期の播種を避ける。 連作を避ける。
	軟腐病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。 発病株の除去。	排水対策。
	コナガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	初期防除の徹底。	薬剤による防除。
	ダイコンハムシ (ダイコンサルハムシ)	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	702ha	10月は一部ほ場でのみ確認される程度であったが、初期防除の不徹底などから、11月に多くのほ場で発生を確認し、発生面積率・程度ともに平年比多であった。	初期防除の不徹底。	薬剤による防除。

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)			計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中		少	実			
早期水稲	5,550	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	5,495	0	0
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	5,106	0	-
		葉いもち	0	167	167	1,343	0	(同)	5,106	334	2,372
		穂いもち	0	167	167	2,020	0	(同)	5,106	334	1,949
		紋枯病	0	0	0	339	0	(同)	2,498	0	1,736
		白葉枯病	0	0	0	0	0		0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	4,995	0	0
		心枯線虫病	0	0	0	0	0		0	0	-
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	5,495	0	-
		ごま葉枯病	0	0	167	844	0		0	167	537
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0		0	0	0
		縞葉枯病	0	0	0	0	0		444	0	0
		萎縮病	0	0	0	0	0		0	0	0
		黄萎病	0	0	0	0	0		0	0	0
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0		0	0	982
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	5,495	0	-
		内穎褐変病	0	0	0	0	0		-	0	2,107
		稲こらじ病	0	0	0	0	0		0	0	0
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0		0	0	-
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0		0	0	-
		セジロウンカ	0	0	0	3,530	0	(同)	444	0	3,475
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同)	444	0	154
		ヒメトビウンカ	0	844	1,343	3,025	0	(同)	444	2,187	5,805
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	3,868	0	(同)	444	0	4,047

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
早期水稲 (続き)		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	944	944	0	
		イネゾウムシ	0	0	0	339	339	(同)	944	944	0	414
		斑点米カメムシ類	0	168	505	1,514	2,187	(同)	944	3,330	673	2,882
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		コブノメイガ	0	0	0	167	167	0	0	0	0	514
		イネミズゾウムシ	0	0	167	3,530	3,697	(同)	944	944	167	4,609
		スクミリンゴガイ	0	339	1,010	672	2,021	444	444	1,349	2,364	
	普通期水稲	9,170	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	9,078	9,078	0
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	8,436	9,078	0	-
		葉いもち	0	0	496	3,718	4,214	(同)	8,436	16,873	496	4,918
		穂いもち	0	0	496	3,965	4,461	(同)	8,436	16,873	496	6,361
		紋枯病	0	235	470	3,997	4,702	(同)	6,419	6,419	705	4,321
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	8,253	8,253	0	-
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	9,078	9,078	0	-
		ごま葉枯病	0	0	1,411	3,762	5,173	(同)	0	1,411	0	3,877
	黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計		防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少	実	延						
普通期水稻 (続き)		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		もみ枯細菌病	0	0	0	941	941	0	0	0	0	0	1,547	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	0	0	9,078	9,078	0	-	
		内穎褐変病	0	0	0	1,411	1,411	0	0	0	0	0	3,972	
		稲こらじ病	0	0	1,528	1,019	2,547	6,419	6,419	1,528	1,528	2,049		
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	4,493	4,493	0	0	-		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		セジロウンカ	0	0	0	5,878	5,878	9,078	17,973	0	0	8,468		
		トビイロウンカ	0	0	0	1,176	1,176	9,078	17,973	0	0	6,298		
		ヒメトビウンカ	0	235	2,586	5,878	8,699	9,078	17,973	2,821	2,821	9,388		
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	5,643	5,643	9,078	17,973	0	0	7,078		
		イネハモク*リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		イネヒメハモク*リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	1,559	1,559	0	0	-		
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	1,559	1,559	0	0	-		
		斑点米カメムシ類	0	248	1,983	3,222	5,453	4,677	5,502	2,231	2,231	5,088		
イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-				
フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-				
イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-				
アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-				
コブノメイガ	0	0	0	3,292	3,292	7,336	7,336	0	0	2,943				
イネミズゾウムシ	0	0	348	1,055	1,403	1,559	1,559	348	348	1,353				
スクミリンゴガイ	0	0	1,055	1,412	2,467	734	734	1,055	1,055	2,458				
ナカジロシタバ	3,010	1,003	1,254	502	3,010	2,528	4,997	2,759	2,759	3,128				
ハスモンヨトウ		1,003	1,254	502	3,010	2,528	4,997	2,759	2,759	3,128				
イモコガ		0	502	753	1,506	2,528	4,997	1,255	1,255	1,562				

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)			計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中		少	実				延
じゃがいも	365	疫病	0	0	73	110	183	219	438	73	139	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	(同)	219 (同)	438	0	278
かんきつ	1,145	ニシユウヤホシテントウ	0	0	0	37	37	(同)	219 (同)	438	0	119
		そうか病(春葉)	0	0	0	191	191	802	802	802	0	52
温州	527	そうか病(果実)	0	0	64	445	509	802	1,604	64	105	
		黒点病(果実)	0	0	245	491	736	802	2,406	245	840	
晩柑	618	かいよう病(春葉)	0	0	0	64	64	802	802	0	164	
		かいよう病(果実)	0	0	0	82	82	802	802	0	93	
かんきつ (続き)	1,230	日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	51	
		ミカンハダニ	0	64	0	191	255	(同)	1,145 (同)	4,008	64	482
茶	1,230	ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同)	1,145 (同)	4,008	0	-
		チャノキアサミウマ	0	0	0	0	0	1,031	3,093	0	0	15
茶	1,230	ミカンハモグリガ	0	0	0	191	191	191	287	0	322	
		アブラムシ類	0	0	0	254	254	254	254	0	269	
茶	1,230	カメムシ類	0	0	115	458	573	573	687	115	500	
		炭疽病	0	0	205	923	1,128	1,230	4,305	205	761	
茶	1,230	もち病	0	0	0	87	87	(同)	1,230 (同)	1,230	0	171
		網もち病	0	0	0	0	0	(同)	1,230 (同)	4,305	0	0
茶	1,230	輪斑病	0	0	0	103	103	1,230	2,460	0	231	
		チャノココクモンハマキ	0	0	0	87	87	(同)	1,230 (同)	4,305	0	29
茶	1,230	チャハマキ	0	0	0	95	95	(同)	1,230 (同)	4,305	0	34
		チャノホソガ	0	87	0	615	702	(同)	1,230 (同)	4,305	87	686
茶	1,230	チャノミトリヒメヨコハ	0	0	0	568	568	(同)	1,230 (同)	4,305	0	0
		カンサウハタニ	0	0	82	164	246	1,230	3,075	82	573	
茶	1,230	チャノキアサミウマ	0	0	0	189	189	(同)	1,230 (同)	4,305	0	714
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	0	246	246	185	185	0	626	
茶	1,230	クワシロカイガラムシ	103	0	205	410	718	431	647	308	432	
		チャトゲコナジラミ	0	87	176	791	1,054	1,230	4,305	263	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
冬春キュウリ (R4.9 ~R5.6)	305	べと病	0	0	33	107	140	290	1,449	33	162		
		炭疽病	0	0	0	0	0	128	256	0	0		
		疫病	0	0	0	0	0	122	122	0	0		
		灰色かび病	0	0	0	0	0	122	122	0	1		
		うどんこ病	3.3561	3	3	34	44	305	1,220	10	86		
		褐斑病	0	0	0	9	9	293	879	0	20		
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	76	153	0	0		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	3	86	89	290	1,739	3	117		
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	122	122	0	0	2	
冬春ピーマン (R4.9 ~R5.6)	184	疫病	0	0	0	0	0	75	75	0	0		
		斑点病	0	2	19	51	73	143	574	21	48		
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	36	36	0	0		
		うどんこ病	0	0	4	47	51	158	473	4	68		
		灰色かび病	0	0	0	0	0	45	90	0	0		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		アブラムシ類	0	0	2	2	4	90	179	2	6		
		タバコガ	0	0	0	0	0	99	197	0	1		
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	0	23	23	174	1,217	0	46		
		ヒラズハナアザミウマ	23	34	32	43	132	174	1,217	90	106		
冬春トマト (R4.9 ~R5.6)	99	疫病	0	0	0	0	0	74	297	0	2		
		灰色かび病(総合)	0	0	1	3	4	89	178	1	9		
		葉かび病	0	0	0	13	13	69	208	0	21		
		コナジラミ類	3	11	19	40	74	99	693	33	58		
		ハモグリバエ類	0	0	0	0	0	81	162	0	2		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	45	89	0	0		
		ハスモンヨトウ	0	0	0	3	3	45	89	0	11		
		(含ミニ)											

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
冬春イチゴ (R4.9 ~R5.5)	51	灰色かび病	0	0	0	0	0	45	89	0	1	
		うどんこ病	0	1	1	4	5	51	102	1	13	
		炭そ病	0	0	0	4	4	13	25	0	3	
		アブラムシ類	0	0	1	18	19	51	152	1	19	
		ハダニ類	1	1	4	15	21	51	203	6	35	
		ハスモンヨトウ	0	0	1	4	5	51	102	1	5	
秋冬ダイコン (R4.9~12)	877	モザイク病	0	0	0	88	88	0	0	0	112	
		アブラムシ類	0	0	0	614	614	544	544	0	536	
		キスジノミハムシ	0	0	0	0	0	175	175	0	113	

8) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病虫害	情報内容
注意報	1	R5. 8月9日	かんしょ	サツマイモ基腐病	次ページ 以降を参照
特殊報	1	10月18日	オクラ	フタテンミドリヒメヨコバイ	
防除情報	1	5月17日	かんしょ	サツマイモ基腐病	
	2	6月6日	施設野菜(きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ)	施設野菜の病虫害(主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、土壌病虫害)	
	3	7月18日	サトイモ	サトイモ疫病	
	4	12月13日	施設野菜(冬春きゅうり、冬春ピーマン、冬春トマト)	ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 1 号について

令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を公表したので送付します。

令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

本年産かんしょ栽培において、サツマイモ基腐病の発生が増加しています。今後の発生拡大を防止するため、薬剤防除等の適切な対策を実施しましょう。

- 1 病害虫名 : サツマイモ基腐病
- 2 作物名 : かんしょ
- 3 発生地域 : 県下全域（県北地域を除く）
- 4 発生量 : ー

5 注意報の根拠

- (1) 5月中旬、青果用かんしょ及び原料用かんしょのほ場において、サツマイモ基腐病の発生が確認された（令和 5 年度病害虫防除情報第 1 号、5月17日発表参照）。その後、本病の発生が散見されていたが、本県が実施している定点調査において、7月末時点での発生ほ場の割合が昨年同時期よりも増加傾向にある。
- (2) 過去 2 年間の発生消長調査結果から、8月以降、本病の発生が拡大する傾向にあるため（図 1）、今後の発生に注意が必要である。
- (3) 九州南部の向こう 1 か月予報（8月 5 日～9月 4 日）から、気温は平年並か高く、降水量は多い見通しであるため（鹿児島地方気象台 8月 3 日発表）、本病の蔓延に好適な環境が続くと予想される。また、台風 6 号が 9 日にかけて本県に接近する恐れがあり、大雨や暴風による更なる発生拡大が懸念される。



図 1 サツマイモ基腐病発生ほ場における発生推移
（北諸県地域原料用かんしょ、R 3～5 年、病害虫防除・肥料検査センター調べ）

6 防除上の注意

- (1) 畝間に水が溜まるような降雨後や台風通過後は本病が蔓延しやすいため、本病に登録のある薬剤を全面に散布する（表1）。なお、散布する際は、株元にしっかりと薬液がかかるよう注意する。
- (2) 薬剤防除にあたっては、これまでの散布履歴から残りの使用回数を考慮し、銅剤を含めたローテーション散布を実施する。
- (3) 本病の発生が増加傾向にあるほ場では、被害をできる限り少なくするために早期収穫を検討する。また、次作のために、地温が高いうちに耕耘などして残渣の分解を促進する。

表1 サツマイモ基腐病に対する茎葉散布の登録農薬（2023年8月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ジーファイン水和剤	1,000倍	—	収穫前日まで	散布
Zボルドー	500倍	—	—	散布
アミスター20フロアブル	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで	散布
	12～32倍	3回以内	収穫14日前まで	無人航空機による散布
トリフミン水和剤	2,000～3,000倍	2回以内	収穫前日まで	散布
	16倍	2回以内	収穫前日まで	無人航空機による散布
フロンサイドSC	1,000倍	2回以内	収穫30日前まで	散布

※農薬は、使用する前に必ずラベルの表示を確認し、適正に使用すること。

○本病に対する詳細な防除対策は、以下の防除暦やマニュアルを参照すること。

- ・【宮崎県】サツマイモ基腐病の防除暦

https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/67650/67650_20230207130348-1.pdf



- ・【農研機構】サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和4年度版）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf



- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
 （病虫害防除・肥料検査センター） 阿萬・久野
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

6011-1491
令和5年10月18日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号について

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病害虫名：フタテンミドリヒメヨコバイ
Amrasca biguttula (Ishida, 1913)

2 作物名：オクラ

3 発生確認の経過

令和5年(2023年)8月下旬、県南部のオクラほ場において、葉の黄化・萎縮症状を確認し(図1)、被害葉上で、翅の中央後方に目立つ黒点を有するヨコバイ類の寄生を確認した(図2)。ほ場から虫体を採取後、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未確認のフタテンミドリヒメヨコバイであることが判明した。

4 国内の発生状況

国内では、沖縄県のオクラで発生が確認されているほか、平成17年(2005年)に東京都小笠原諸島のナス・オクラ・ハイビスカス、令和2年(2020年)に熊本県のオクラ、令和3年(2021年)に高知県のナス、令和4年(2022年)に徳島県のオクラでの発生が確認されている。

5 形態及び生態の特徴

(1) 形態

成虫の体長は、2.7mm前後。体色は黄～黄緑色で、背方から見ると頭頂部と翅の中央後方に目立つ黒点を有する。(図3・4)。幼虫の体色は黄緑色で、3～5齢幼虫では胸部背面に4個の暗色斑を生じる(図5)。

(2) 生態

雌成虫は黄白色の卵を葉脈に一度に15卵ほど産卵する。卵は孵化直前には灰色がかった黄色になる。卵は4～11日で孵化し、幼虫期間は7～21日、成虫の寿命は35～50日である。

(3) 被害

幼虫・成虫とも新葉や茎を吸汁する。本種に吸汁された葉は黄化や萎縮症状を呈し、生育が抑制される。

(4) 寄主植物

アオイ科（オクラ、ハイビスカス、ワタ他）、ナス科（ジャガイモ、ナス他）、マメ科（ササゲ、ダイズ他）など。国内では、オクラ、ナス、ハイビスカスでの被害の報告がある。

6 防除対策

- (1) 被害葉の早期発見に努める。オクラで本種を発見した場合は、速やかに下記登録農薬で防除を行う（表1）。なお、農薬の使用にあたっては、最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。
- (2) 本種に寄生された作物や残渣を放置すると、近隣のオクラ等の寄主植物に本種が移動し、繁殖する可能性があるため、栽培終了後は、作物や残渣を適正かつ迅速に処分する。



図1 オクラの被害葉



図2 葉への寄生



図3 成虫

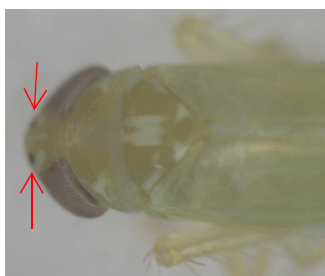


図4 成虫頭部



図5 幼虫

表1 フタテンミドリヒメヨコバイに対する登録農薬（オクラ）（令和5年9月現在）

薬剤名	商品名	希釈倍率	散布液量	使用方法	総使用回数	使用時期
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	1,000倍	100-300 L/10a	散布	1回以内	収穫7日前まで
	ジェイエース水溶性					
	ジェネレート水溶性					
	スミフェート水溶性					
ジノテフラン水溶性	スタークル顆粒水溶性	2,000倍	100-300 L/10a	散布	3回以内 (散布2回以内) (株元散布1回以内)	収穫前日まで
	アルバリン顆粒水溶性					
フロニカミド水和剤	ウララDF	2,000倍	100-300 L/10a	散布	3回以内	収穫前日まで

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 田爪
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫防除情報第1号

サツマイモ基腐病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**本年産サツマイモ栽培において、サツマイモ基腐病が本ぽで確認されました。
今後の発生拡大防止のため、適切な対策を徹底しましょう。**

1 作物名 かんしょ

2 病害虫名 サツマイモ基腐病

3 発生状況(経過)

5月中旬、県内の青果用サツマイモほ場及び原料用サツマイモのほ場において、サツマイモ基腐病の発生が確認された。今後、梅雨入りに伴い、本病に好適な条件が続くことが予想され、本ぽでの発生拡大が懸念される。

4 本ぽにおける対策のポイント

(1) 定植後に発病した株は、症状の進展とともに、病斑部(図1)に大量の胞子を形成し、降雨等により周辺に広がることから、ほ場での発生の有無をこまめに確認し、発病株の早期発見・除去に努める。

(2) 発病株を見つけた場合は、早急に抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。また、周辺株への伝染を予防するため、薬剤による予防散布を行う。散布の際は、株元にしっかり薬液がかかるよう注意する。

(3) 薬剤の散布については、本ぽへの植付け35日後(5週目)頃から、アミスター20フロアブル、トリフミン水和剤及び銅剤(Zボルドー、ジーファイン水和剤)とのローテーション散布を行う(表1)。また、台風等の暴風雨や長雨等の状況にあわせて、適宜殺菌剤を散布する。



図1 発病株の病斑部(参考)

表1 サツマイモ基腐病に対する茎葉散布の登録農薬（2023年5月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期	使用方法
ジーファイン水和剤	1,000倍	－	収穫前日まで	散布
Zボルドー	500倍	－	－	散布
アミスター20フロアブル	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで	散布
	12～32倍	3回以内	収穫14日前まで	無人航空機による散布
トリフミン水和剤	2,000～3,000倍	2回以内	収穫前日まで	散布
	16倍	2回以内	収穫前日まで	無人航空機による散布

※農薬は、使用する前に必ずラベルの表示を確認し、適正に使用すること。

○本病に対する詳細な防除対策は、以下の防除暦やマニュアルを参照すること。

- ・【宮崎県】サツマイモ基腐病の防除暦

https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/67650/67650_20230207130348-1.pdf



- ・【農研機構】サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和4年度版）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf



《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 阿萬、久野
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫防除情報第2号

施設野菜の病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付けのための病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、土壌病害虫）
- 3 発生状況（経過）

施設野菜の4月の巡回調査結果は以下のとおりであった（イチゴは3月調査）。

（1）冬春キュウリ

ミナミキイロアザミウマ（10月～4月の発生程度：平年よりやや少）

4月：発生面積率：50.0%（前年30.0%、平年58.1%） 平年並
100葉当たり虫数：5.8頭（前年3.1頭、平年79.5頭） 平年より少

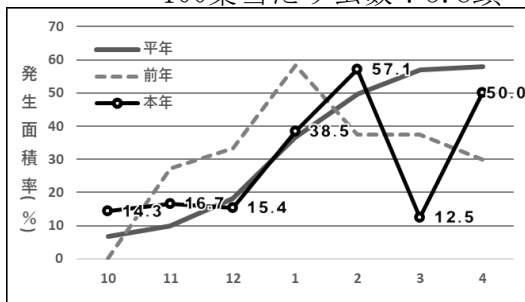


図1 発生面積率の推移

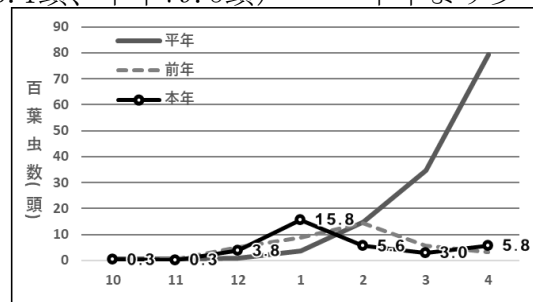


図2 100葉当たり虫数の推移

黄化えそ病（MYSV）（10月～4月の発生程度：平年並）

4月：発生面積率：12.5%（前年20.0%、平年19.4%） 平年並
発病株率：0.0%（前年1.3%、平年0.8%） 平年よりやや少

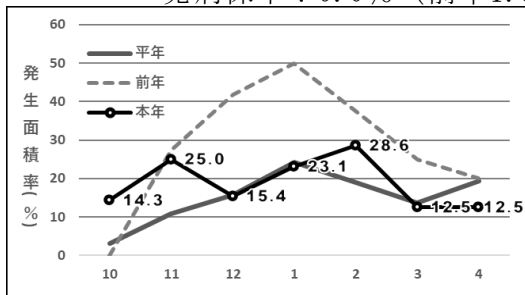


図3 発生面積率の推移

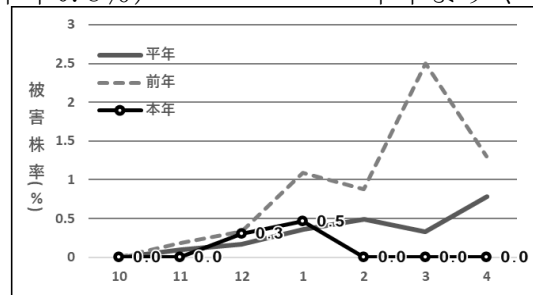


図4 発病株率の推移

(2) 冬春ピーマン

ミナミキイロアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年並)

4月：発生面積率：0% (前年8.3%、平年26.6%)

10花当たり虫数：0頭 (前年0.1頭、平年1.3頭)

平年よりやや少
平年よりやや少

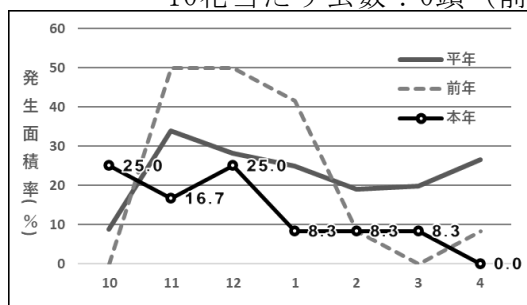


図5 発生面積率の推移

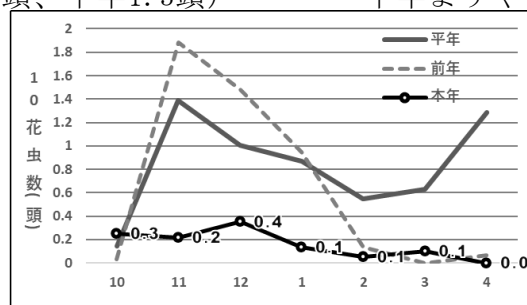


図6 10花当たり虫数の推移

ヒラズハナアザミウマ (10月～4月の発生程度：平年よりやや多)

4月：発生面積率：91.7% (前年66.7%、平年68.5%)

10花当たり虫数：15.2頭 (前年18.1頭、平年23.8頭)

平年より多
平年よりやや少

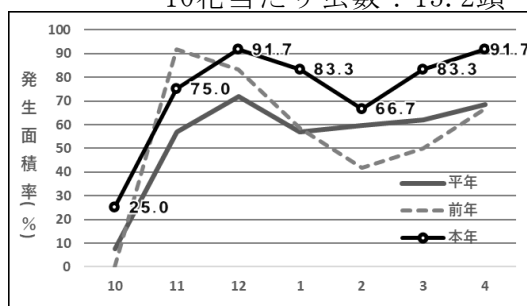


図7 発生面積率の推移

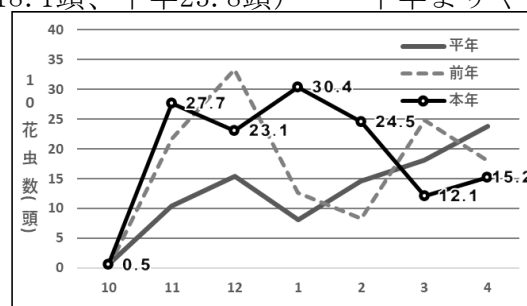


図8 10花当たり虫数の推移

(3) 冬春トマト

タバココナジラミ (10月～4月の発生程度：平年より多)

4月：発生面積率：90.0% (前年20.0%、平年39.8%)

100葉当たり虫数：64.7頭 (前年1.6頭、平年13.1頭)

平年より多
平年より多

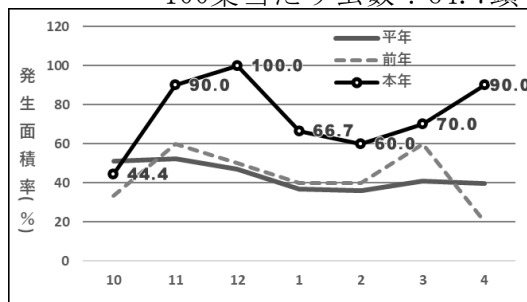


図9 発生面積率の推移

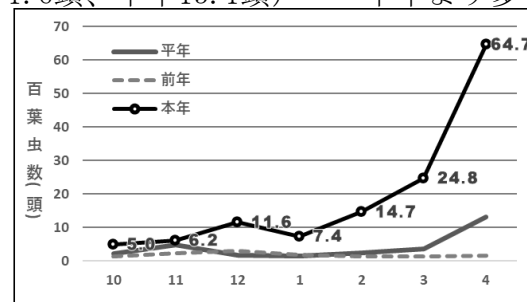


図10 100葉当たり虫数の推移

(4) イチゴ (3月調査)

ハダニ類 (10月～3月の発生程度：平年並)

3月：発生面積率：33.3% (前年16.7%、平年65.0%)

寄生株率：12.2% (前年1.2%、平年24.6%)

平年よりやや少
平年よりやや少

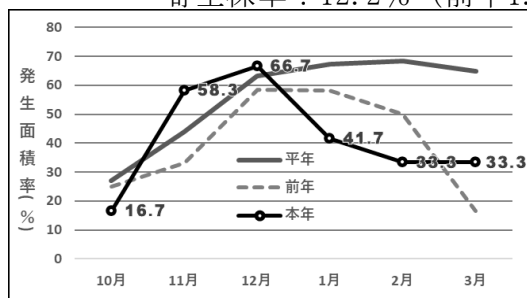


図11 発生面積率の推移

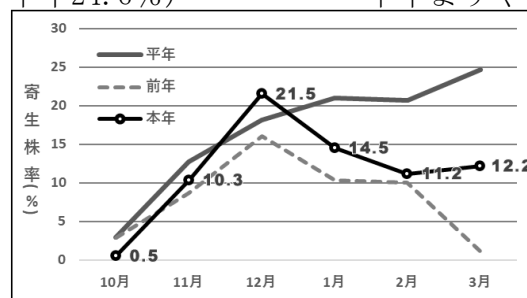


図12 寄生株率の推移

ヒラズハナアザミウマ（10月～3月の発生程度：平年より多）

3月：発生面積率：75.0%（前年75.0%、平年29.8%）
寄生花率：16.8%（前年19.7%、平年6.1%）

平年より多
平年より多

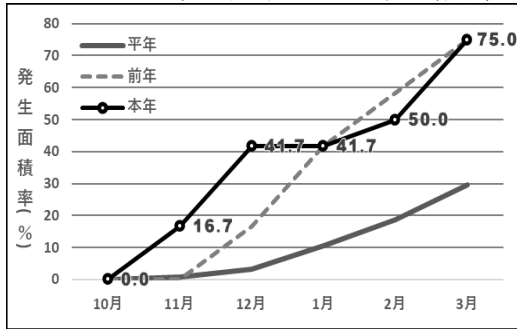


図13 発生面積率の推移

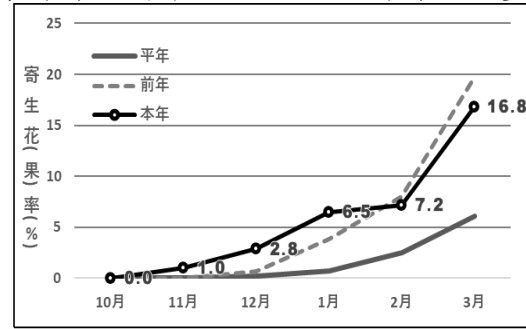


図14 寄生花率の推移

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきた。次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を防止し、感受性低下個体群の野外への定着を防ぐことが重要である。
- ② 微小害虫が媒介するウイルス病（表1）の防除対策では、特に周辺へのウイルス拡散防止を目的に、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残った害虫を死滅させる。具体的には、対象の害虫に対する薬剤防除を行った上で、施設を密閉して10日間程度蒸し込む。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。

表1 各作物における主なウイルス病および媒介虫

作物	病害（ウイルス）	媒介虫
キュウリ	黄化えそ病（MYSV）	ミナミキイロアザミウマ
	退緑黄化病（CCYV）	コナジラミ類
	黄化葉巻病（TYLCV）	タバココナジラミ
トマト・ミニトマト	黄化病（ToCV）	コナジラミ類
	黄化えそ病（TSWV）	アザミウマ類
ピーマン	黄化えそ病（TSWV）	アザミウマ類

2) 土壌病害虫

- ① 作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。
 - ② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。
 - ③ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。
- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 田爪
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
ホームページ：http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫防除情報第3号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

県内のサトイモ栽培ほ場において疫病の発生が確認されました。 今後の発生に注意して適切な防除を行ってください。

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫 病

3 発生状況（経過）

- (1) 6月第6半旬に、県西部のサトイモほ場において疫病の初発生が確認された。
- (2) 初確認の時期は、前年に次いで過去2番目に遅い。
(初発時期) 本年：6月第6半旬 前年：7月第2半旬 前々年：6月第2半旬
- (3) 感染すると葉や葉柄に病斑が発生し（図1）、病斑が拡大すると、収量の低下につながる。例年7月から8月にかけて急速に蔓延することから（図2）、今後の発病の推移に注意が必要である。



図1 感染した株の病斑（葉、葉柄）

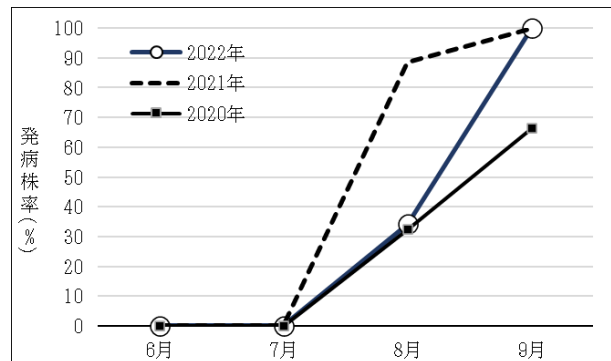


図2 巡回調査における発病株率の推移

4 本病の特徴

本病の病原菌である *Phytophthora colocasiae* は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起る。

5 防除上の注意

- (1) 発病前からの定期的な薬剤散布が防除効果を向上させる。ほ場をこまめに巡回し、発病前はマンゼブ水和剤、シアゾファミド水和剤および炭酸水素ナトリウム・銅水和剤による予防散布を実施する。発病後は治療効果のあるアミスルブロム・シモキサニル水和剤、アゾキシストロビン水和剤およびベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤を散布する。散布にあたっては、使用時期（収穫前日数）を必ず確認すること（表1参照）。
- (2) 薬剤散布にあたっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量を散布する。また、高温時の薬剤散布により薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

- (3) 同じ成分の殺菌剤を連用すると耐性菌が発生するリスクがあるため、異なる成分の殺菌剤をローテーション散布する。
- (4) 排水不良のほ場では発生が助長されるので、ほ場外への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。
- (5) 防除体系等の詳細については、「サトイモ疫病対策マニュアル（2023年版）」（宮崎県病害虫防除・肥料検査センターHP:www.jppn.ne.jp/miyazaki/）を参照。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬（令和5年6月30日現在）

薬剤名	商品名	希釈倍率	散布液量	使用方法	使用回数	使用時期
マンゼブ水和剤*	ペンコゼブ 水和剤	500倍	100-300 L/10a	散布	2回以内	収穫7日前まで
	ジマンダイセン 水和剤					
ベンチアバリカルブイ ソプロピル・マンゼブ 水和剤*	カンパネラ 水和剤	1,000倍	100-300 L/10a	散布	2回以内	収穫7日前まで
	ベネセット 水和剤					
シアゾファミド 水和剤	ランマン フロアブル	2,000倍	100-300 L/10a	散布	2回以内	収穫前日まで
炭酸水素ナトリウム ・銅水和剤	ジーファイ 水和剤	1,000倍	150-500 L/10a	散布	—	収穫前日まで
		2,000倍	100-300 L/10a	散布		
アミスブルム ・シモキサニル水和剤	ダイナモ 顆粒水和剤	20倍	1.6 L/10a	無人航空機 による散布	3回以内	収穫21日前まで
		40倍	3.2 L/10a			
アゾキシストロビン 水和剤	アミスター20 フロアブル	2,000倍	100-300 L/10a	散布	3回以内	収穫14日前まで
		18倍	1.6 L/10a	無人航空機 による散布		

※マンゼブを含む農薬の総使用回数（2回以内）に注意する。

- 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》
 宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 田爪
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫防除情報第4号

県内の施設野菜におけるヒラズハナアザミウマ、タバココナジラミについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

施設野菜におけるヒラズハナアザミウマ、タバココナジラミの発生が増加しています。今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 施設野菜（冬春きゅうり、冬春ピーマン、冬春トマト）
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
タバココナジラミ

3 発生状況（経過）

(1) ヒラズハナアザミウマ

11月中旬に実施した巡回調査において、冬春ピーマンでのヒラズハナアザミウマの発生面積率は平年よりやや多、発生程度は平年より多であった（図1～2）。

冬春ピーマン（多）

発生面積率：81.8%（平年55.8%、前年75.0%） 平年よりやや多
10花当たり虫数：29.4頭（平年11.8頭、前年27.7頭） 平年より多

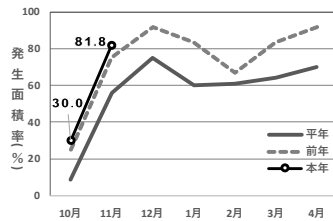


図1 発生面積率の推移

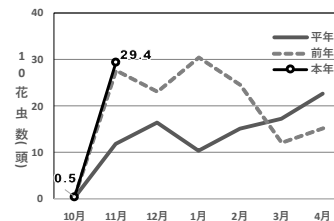


図2 10花当たり虫数の推移

(2) タバココナジラミ

11月中旬に実施した巡回調査において、施設野菜各作物でのタバココナジラミの発生面積率は平年より多、発生程度は平年よりやや多であった（図3～8）。

冬春キュウリ（やや多）

発生面積率：75.0%（平年43.1%、前年50.0%） 平年より多
100葉当たり虫数：2.8頭（平年2.1頭、前年5.1頭） 平年よりやや多

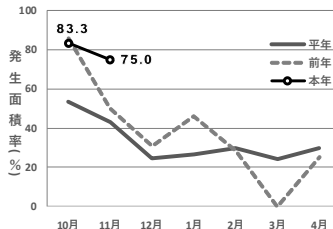


図3 発生面積率の推移

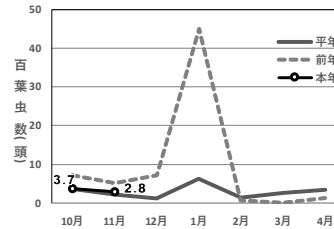


図4 100葉当たり虫数の推移

冬春ピーマン（多）

発生面積率：90.9%（平年59.9%、前年75.0%） 平年より多
100葉当たり虫数：10.9頭（平年7.6頭、前年9.2頭） 平年よりやや多

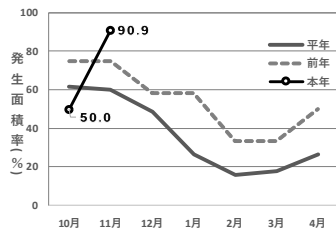


図5 発生面積率の推移

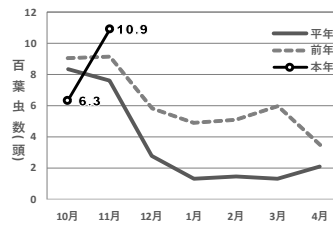


図6 100葉当たり虫数の推移

冬春トマト（やや多）

発生面積率：90.0%（平年57.0%、前年90.0%）

100葉当たり虫数：8.6頭（平年5.2頭、前年6.2頭）

平年より多

平年よりやや多

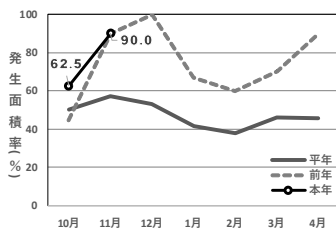


図7 発生面積率の推移

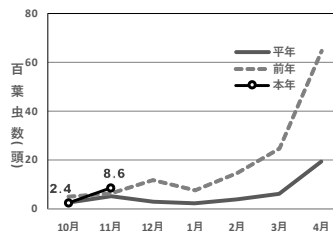


図8 100葉当たり虫数の推移

4 防除上の注意

（共通事項）

- (1) 施設内およびほ場周辺の雑草は生息・増殖場所となるので、除草を徹底する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、低密度のうちに防除を実施する。
- (3) 成虫の捕殺による密度抑制および発生状況の把握を目的に、施設内に有色粘着板を設置する。
- (4) 両虫ともに、薬剤感受性の低下が報告されるなど、薬剤の効果は、ほ場によって異なる場合があるため、有効な薬剤を選定し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加散布を実施する。
- (5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。
- (6) 天敵を導入しているほ場では、天敵に影響の小さい薬剤を選定する。

（ヒラズハナアザミウマ）

- (1) 主に花内部に生息し、ピーマン黄化えそ病の原因となるトマト黄化えそウイルス（TSWV）を媒介するため、野外からの侵入および施設内での増殖を防ぐ。
- (2) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- (3) 薬剤防除は薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また、花粉が薬液をはじくことから、薬剤の付着性を高めるために、乳剤以外は展着剤を加用する。

（タバコナジラミ）

- (1) 各種ウイルスを媒介するため（表1）、施設内で増殖しないよう防除を徹底する。
- (2) 下位葉は生息・増殖場所となりやすいため、薬剤散布による防除とともに、不要な葉の除去を徹底することで密度低下を図る。
- (3) 抵抗性発達の可能性が低い微生物農薬や、物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込む。
- (4) 改植時には、周辺ハウスへのウイルス病拡散防止のため、薬剤を用いた残渣処理や施設の密閉処理を十分な期間確保して実施し、ウイルス媒介虫の死滅及びウイルス病罹病株の枯死を図る。

表1 コナジラミ類によって媒介される各作物のウイルス病

媒介虫	作物	病名	病原ウイルス名
コナジラミ類	キュウリ	退緑黄化病	CCYV（キュウリ退緑黄化ウイルス）
		黄化病	ToCV（トマト退緑ウイルス）
タバココナジラミ	トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	TYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 田爪
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ：http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki

2 侵入調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域（7地点）において、フェロモントラップ（ユーゲルアD8、メドフライコール）を設置し、ミバエ類の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・児湯・東臼杵（南部・北部）の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い4～12月及び3月に計15地点で侵入警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 清武町のミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 青島 水産試験場内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	0	0	0	南那珂農林振興局
南郷町 虚空蔵島入口	〃	0	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	0	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	0	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	0	0	0	〃
〃 都井港	〃	0	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	0	0	0	〃
〃 新福島港	〃	0	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	〃
延岡市 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ150回（10ヶ月×15か所） ウリミバエ・ミカンコミバエ780回（10ヶ月×月2回×22か所）				

(2) 調査結果

設置したフェロモントラップでは、対象ミバエ類の誘殺は確認されなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（19地点）にトラップ（アリモドキキラーⅡ）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局（普及センター）に委託し、気温が高い7～9月に計20地点で侵入警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の植栽状況等	調査期間及び調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	阿波岐原森林公園付近	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	田野町運動公園付近	〃	0	〃
〃 塩路	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 山田町牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
川南町 川南	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
〃 持田	甘藷畑	〃	0	〃
串間市 大字奈留(大東原)	甘藷畑	〃	0	〃
〃	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 田野町乙	七野地区	7～9月 6回	0	中部農林振興局
国富町 大字八代	甘藷畑	〃	0	〃
日南市 油津	油津港	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 大堂津	大堂津港	〃	0	〃
〃 南郷町	目井津港	〃	0	〃
串間市 大字奈留	J A大東集荷場	〃	0	〃
〃 〃	J A大東育苗センター	〃	0	〃
〃 〃	アオイファーム	〃	0	〃
串間市 〃	仲別府公民館	〃	0	〃
〃 大平	J A大東集荷場	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
串間市 大字北方	酒造会社付近	〃	0	南那珂農林振興局
〃 大字西方	J Aはまゆう集荷場	〃	0	〃
〃 〃	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 大字南方	福島港	〃	0	〃
都城市 沖水	北諸県農業改良普及センター	6～9月 6回	0	北諸県農林振興局
三股町	植木公園付近	〃	0	〃
小林市 細野	甘藷畑	6～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 西方	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 大字茶臼原	畜舎付近	6～9月 6回	0	児湯農林振興局
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
対象病害虫の調査総回数	310回（5ヶ月×月2回×19か所+3ヶ月×月2回×20か所）			

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) トマトキバガ侵入警戒調査

4～3月にかけて県内5地点にフェロモントラップ(PHEROCON® TUTA ABSOLUTA LURES)を設置し、トマトキバガの侵入調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置箇所	調査期間	調査回数	誘殺数(計)
宮崎市佐土原町 総合農業試験場	4～3月	月2回	2
宮崎市田野町 田野運動公園付近	〃	〃	10
国富町 岩知野公民館付近	〃	〃	6
西都市 大字茶臼原	〃	〃	3
都農町 川北	〃	〃	3

(2) 調査結果

複数回にわたりわずかな誘殺が確認された。

4) イモゾウムシ侵入警戒調査

10月25、26日に都城市(15ほ場)、串間市(15ほ場)で、収穫終了後のかんしょほ場において、1ほ場当たり約50本の収穫残さを切開及び目視により食害痕等を調査した(調査総回数30回)。いずれの地域においてもイモゾウムシの侵入は認められなかった。

5) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～11月、県内のかんきつ園地18ほ場で調査したが、発生は確認されなかった(調査総回数144回(8ヶ月×18か所))。

3 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稻)

	宮崎	油津	串間	日向	高鍋	西都
4月1日	—	—	—	—	3	—
4月5日	—	—	—	4	4	—
4月6日	1	4	1	—	1	1
4月7日	—	—	—	4	—	—
4月21日	—	—	—	—	4	—
4月25日	3	3	—	3	3	3
4月29日	—	—	—	4	4	—
5月1日	—	—	—	—	3	—
5月5日	1	1	1	—	4	1
5月7日	1	1	—	1	1	1
5月13日	4	4	—	—	4	—
5月14日	—	1	—	—	1	1
5月20日	—	—	—	—	4	—
5月23日	—	—	—	4	—	—
6月12日	—	—	—	—	●	—
6月13日	●	—	—	●	●	—
6月14日	—	—	—	●	●	—
6月15日	—	●	—	●	●	●
6月16日	—	—	—	●	—	—
6月18日	●	—	●	—	●	●
6月19日	●	—	—	●	●	●
6月21日	—	—	—	●	—	—
6月26日	—	—	—	●	●	●
6月30日	—	—	—	2	—	—
7月5日	—	2	—	—	—	2
7月6日	—	—	—	—	3	—
7月7日	—	—	—	—	2	—
7月8日	—	—	—	—	3	—
7月12日	—	—	—	3	3	—
7月13日	—	—	—	2	—	—
7月26日	—	—	3	—	—	—
7月31日	—	3	—	—	3	3

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	日南	串間	日向	高鍋	西都
5月中旬	0	0	/	0	/	0
6月中旬	0	0		0		0
6月下旬	24.0	0		0		7.3
7月中旬	4.0	0.3		0		1.1

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林	宮崎	都城
6月13日	—	1	4	—	—	—	●	—
6月14日	●	4	—	●	—	—	—	—
6月15日	—	—	●	●	●	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	●	—
6月19日	—	—	—	●	●	●	●	●
6月21日	—	—	—	—	—	●	—	●
6月22日	●	4	—	●	●	●	—	●
6月26日	●	●	●	?	●	—	—	—
6月29日	—	●	—	—	—	—	—	—
6月30日	—	—	—	●	3	2	—	—
7月2日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月5日	●	●	●	—	—	—	—	—
7月6日	—	—	—	●	—	●	—	3
7月9日	—	—	—	●	3	—	—	—
8月2日	2	●	—	—	—	—	—	3
8月3日	●	—	—	—	3	—	—	3
8月4日	—	—	3	●	—	—	—	—
8月5日	2	—	—	●	—	—	—	—
8月6日	—	●	—	—	—	—	—	—
8月7日	2	●	—	—	—	—	—	—
8月11日	—	●	—	2	3	2	—	—
8月19日	—	●	—	3	—	—	—	—
8月30日	●	—	—	●	—	2	—	—
9月1日	●	—	—	—	—	—	—	—
9月3日	—	—	2	●	—	—	3	—
9月9日	—	—	—	●	—	—	—	—
9月10日	●	—	—	—	—	—	—	—
9月11日	●	—	—	—	—	—	—	—
9月14日	—	—	2	—	—	●	—	—
9月19日	—	●	2	2	2	—	—	—
9月21日	—	—	3	—	—	—	—	—
9月22日	—	●	—	—	—	—	—	—
9月23日	●	●	—	—	—	—	—	—
9月25日	—	—	—	●	—	—	—	—
9月26日	—	●	—	●	—	—	—	2
9月27日	—	—	—	●	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	0	0	0	2.0	0	0	0	0
7月下旬	6.0	6.0	4.0	12.0	0	0	0	3.3
8月中旬	5.0	6.0	2.0	16.0	0	30	0	0
8月下旬	2.0	0	10.0	12.0	16.0	1.0	0	6.0
9月中旬	3.8	3.4	0.3	5.2	0	0.2	0	0.03

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	21	6	11	17	38	0	38	20	9	29
南那珂	15	1	0	1	89	4	93	28	0	28
児湯	18	4	4	8	16	10	26	33	21	54
東臼杵	8	0	1	1	90	0	90	7	0	7
全 県 平 均	62	0.2	0.3	0.4	3.8	0.2	4.0	1.4	0.5	1.9

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(① +②+③+④)	4種平均	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計			
中部	21	27	17	44	326	220	546	128	6.1	5.5
南那珂	15	8	0	8	231	40	271	130	8.7	8.7
児湯	18	5	5	10	455	694	1149	98	5.4	10.7
東臼杵	8	14	0	14	30	1	31	112	14.0	13.7
全 県 平 均	62	0.9	0.4	1.2	16.8	15.4	32.2	7.5	7.5	8.3

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

3) ヒノキ球果口針鞘数調査による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日
1	中部	宮崎市高岡町	7月20日	0	9月3日
2	南那珂	日南市	7月25日	0	9月8日
3	西諸県	小林市	7月20日	0	9月3日
4	防除センター	西都市	7月25日	0	9月8日
5	防除センター	川南町	7月25日	0	9月8日
6	防除センター	日向市	7月26日	0.3	9月9日
7	防除センター	延岡市	7月25日	0	9月8日

4) サツマイモ基腐病に関する調査

1 調査目的

2018年度から問題となっているサツマイモ基腐病について、防除対策を確立するため、県内の主要なサツマイモ産地において、栽培期間を通じた定点調査を行い、発生病害を明らかにする。また、収量や貯蔵への影響についても明らかにする。

2 調査内容

- 1) 発生病害調査
- 2) 収穫物及び収量調査
- 3) 貯蔵調査
- 4) 聞き取り調査

3 各調査方法

1) 発生病害調査

(1) 調査地域及びほ場数

南那珂地域：2ほ場（青果用）・・・・・・・・・・令和元年度から継続

北諸県地域：1ほ場（原料用）・・・・・・・・・・令和2年度から継続

(2) 調査期間及び調査間隔

令和4年5月～収穫前、約2週間間隔

(3) 調査株数

1ほ場当たり50株×2か所の計100株を調査。

(4) 調査方法

基部黒変及びびつる黒変症状の有無を調査し、下記の発病程度別に発病株率を算出。

発病程度：健全、株元発病株、つるのみ発病株、地上部完全枯死株

2) 収穫物及び収量調査

基腐病の発生が確認されたほ場において、地上部の発病程度別に10株ずつ掘取り、出荷可能塊根割合や推定収量を算出した。腐敗がみられるものや発芽塊根は出荷不可、腐敗がないものやしよ梗が変色している程度の塊根は出荷可能とした。

3) 貯蔵調査

南那珂地域の調査ほ場において、健全株及び株元発病株を10株ずつ掘取り、外観が健全であると判断した塊根を農業試験場内のインキュベーター（温度：15℃、湿度：70%）で16週間貯蔵し、1週間おきに腐敗の有無を調査した。なお、調査時に外観に異常がみられる塊根は切断し、腐敗状況を確認後、健全なものだけを再度貯蔵した。

4 結果

1) 発生病消長調査

- (1) 南那珂A氏ほ場では、初発が7月上旬に確認された（定植後約80日、図1）。収穫前の発病株率は3%で、過去4年間の調査結果と比べ最も低く、年々発病が減少している。（表1）。しかし、茎根腐細菌病がほ場の一部で発生した。
- (2) 南那珂B氏ほ場では、初発が7月下旬に確認された（定植後約90日、図1）。収穫前の発病株率は3%で、B氏ほ場においても、過去4年間の調査結果と比べ最も低く、年々発病が減少している。（表1）。
- (3) 北諸県C氏ほ場では、初発が5月下旬に確認された（定植後約30日、図1）。8月中旬以降発生が増加し、収穫前の発病株率は19%で、過去3年間の調査結果と比較すると増加傾向にある（表1）。

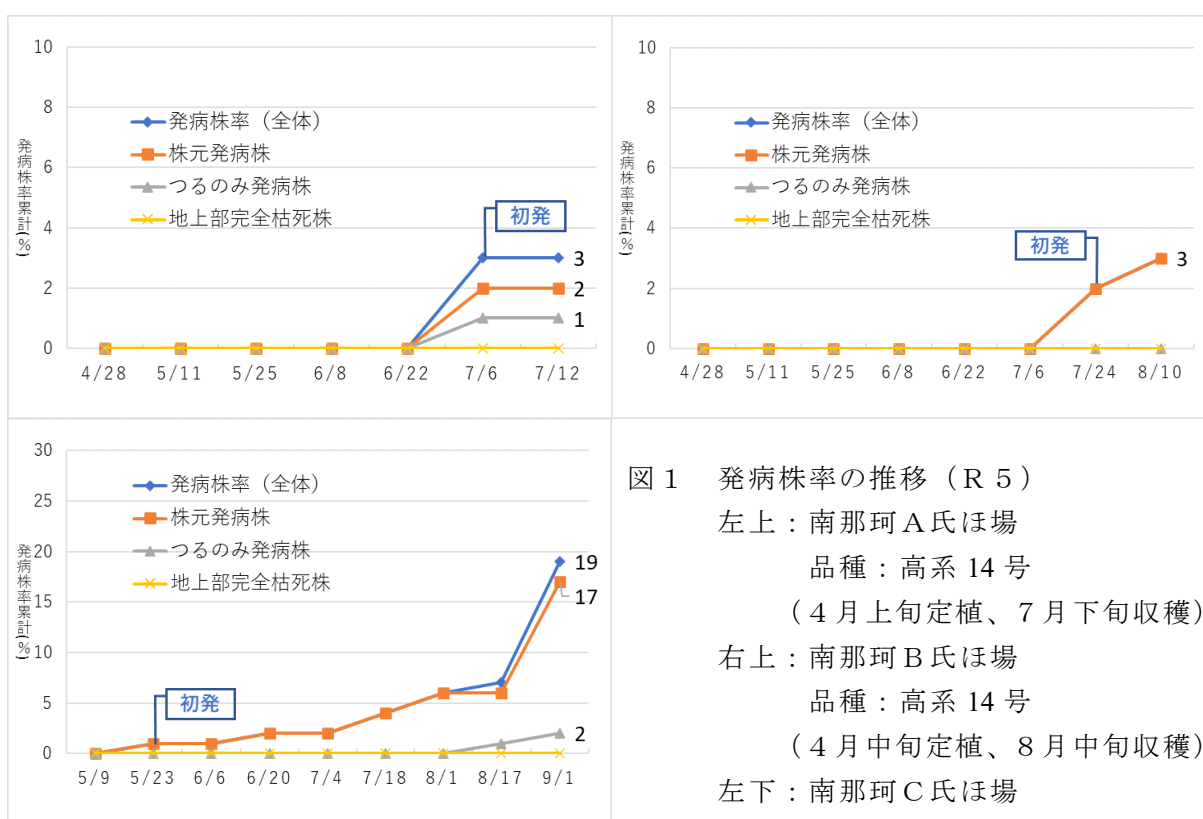


図1 発病株率の推移（R5）

- 左上：南那珂A氏ほ場
品種：高系14号
（4月上旬定植、7月下旬収穫）
- 右上：南那珂B氏ほ場
品種：高系14号
（4月中旬定植、8月中旬収穫）
- 左下：南那珂C氏ほ場
品種：高系14号
（4月中旬定植、9月上旬収穫）

表1 発病株率の年次推移

	南那珂A氏					南那珂B氏					北諸県C氏			
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
発病株率全体(%)	85	52	50	13	3	71	30	19	5	3	3	13	18	19
株元発病株(%)	-	21	5	4	2	-	22	11	3	3	3	9	6	17
つるのみ発病株(%)	-	28	45	9	1	-	7	8	2	-	0	4	12	2
地上部完全枯死株(%)	-	3	0	0	-	-	1	0	0	-	0	0	0	-

2) 収穫物及び収量調査

- (1) 南那珂A氏ほ場では、収量は昨年よりも低かったものの、収穫時の基腐病による腐敗はみられなかった。生産者自身の感覚としても、基腐病の影響は少なかったが、茎根腐細菌病で減収がみられたとのことだった。
- (2) 南那珂B氏ほ場では、収量は過去4年間の結果と比較すると最も高かった。生産者自身の感覚でも、基腐病の影響は少なく、収量は例年より良いとのことだった。
- (3) 北諸県C氏ほ場では、例年より発病がやや増加したものの、塊根の生育は良好で、収穫時の腐敗が少なかったことから、収量は過去3年の結果と比較し、最も高い結果となった。

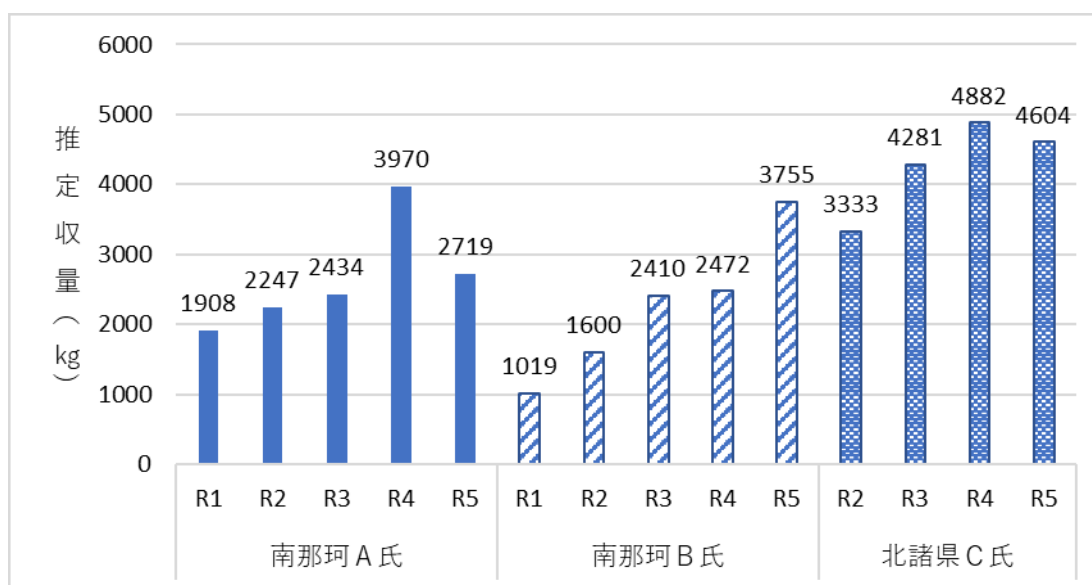


図2 推定収量の年次推移（R1～R5）

3) 貯蔵調査

- (1) 株元発病株から掘り取った塊根は、収穫直後（貯蔵前）は17.4%が出荷不可であり、貯蔵5週目頃から腐敗がみられ、貯蔵12週間後には出荷不可塊根率が累計で47.8%となった。
- (2) 一方、健全株から掘り取った塊根は、収穫時及び貯蔵12週間を過ぎても腐敗は確認されなかった。
- (3) このことから、発病株から収穫したイモは、収穫時は外観健全であっても潜在感染している可能性が示唆された。

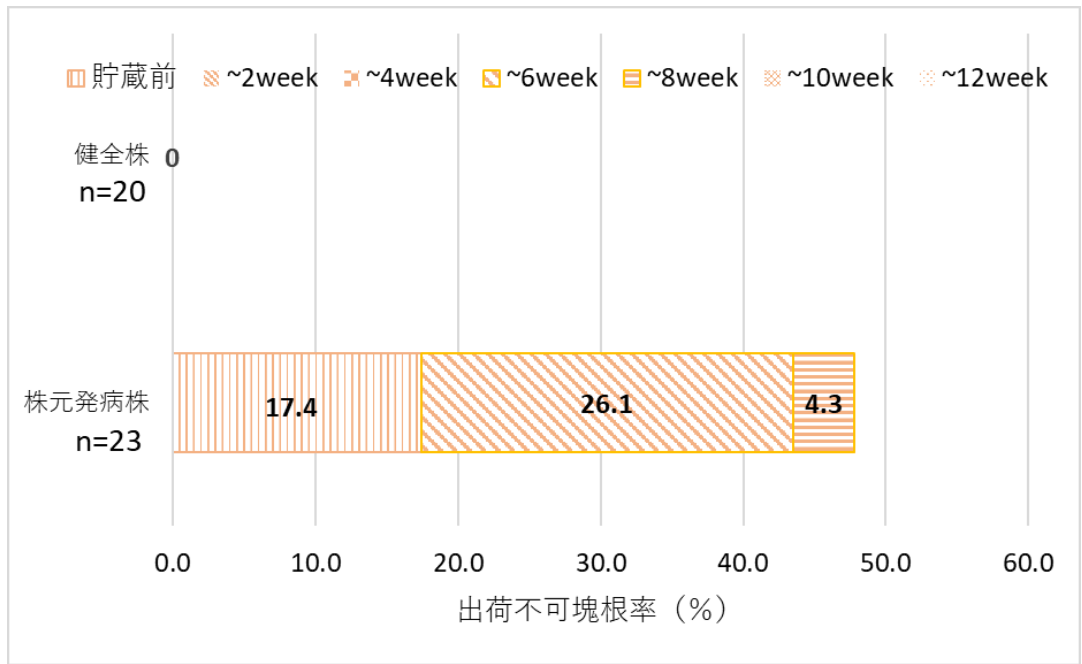


図3 収穫時及び貯蔵中の累計出荷不可塊根率（南那珂B氏ほ場）

5) マイナー作物農薬登録の推進について

1 事業の目的

地域特産作物(マイナー作物)は農薬需要量が少ないことから使用可能な農薬が少ない又は全くない場合もあり、安定的な生産活動に支障がでる事が多々ある。そこで農水省が構築している都道府県、農薬メーカー間の調整を始めとするマイナー作物の農薬登録推進体制に基づき、地域から要望のあるマイナー作物の病害虫について農薬登録に必要な試験データを効率的に作成する。

2 マイナー作物とは

地域特産物として栽培される作物のうち、生産量が少ないもの(生産量 3 万トン以下)でメジャー作物や準メジャー作物に指定された農作物以外の農作物。宮崎県では、にがうり、マンゴー、レイシ等が該当する。農薬登録取得のための必要試験例数は薬効・薬害試験、作物残留試験とも2例となっている。

3 事業の進捗状況

表 1 マイナー作物農薬登録試験の進捗と今後の予定 (2024. 3現在)

品目	対象病害虫	薬剤名	試験の内容	実施状況		登録への進捗
				1 例	2 例	
にがうり	ウリノメイガ	プレオフロアブル	薬効・薬害 作残	済(2021) 不要	済(2022) 不要	登録申請のための成績書が揃った。
にがうり	ウリノメイガ	マトリックフロアブル	薬効・薬害 作残	済(2021) 済(2023)	済(2023) 2024に実施予定	
しきみ	うどんこ病	トリフミン水和剤	薬害 作残	済(2022) 不要	済(2022) 不要	登録済 (2024.3.27)
しきみ	クスアナアキゾウムシ	コテツフロアブル	薬害 作残	済(2022) 不要	済(2022) 不要	登録済 (2024.3.27)
しきみ	グンバイムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	薬害 作残	済(2022) 不要	済(2022) 不要	ドローン使用による登録拡大申請のための成績書が揃った。
にがうり	ウリノメイガ	マッチ乳剤	薬効・薬害 作残	済(2023) 済(2023)	2024に実施予定 2024に実施予定	
しきみ	シキミハリナガフシダニ	アブロードエースフロアブル	薬効 薬害 作残	薬効済(2023) 薬害済(2023) 不要	- 薬害済(2023) 不要	ドローン使用による登録拡大申請のための成績書が揃った。
しきみ	シキミハリナガフシダニ	アグリメック	薬効 薬害 作残	薬効済(2023) 薬害済(2023) 不要	薬効(2024予定) 薬害済(2023) 不要	薬効2例、薬害2例
しきみ	シキミサビダニ	アグリメック	薬効 薬害 作残	薬効済(2023) 薬害済(2023) 不要	- 薬害済(2023) 不要	シキミハリナガフシダニに変更して申請予定

- 1) レイシにおいては薬効薬害試験は果実がない時期になることが多いため、別途幼果期前後に薬害試験を実施した。
- 2) 作残試験はサンプル調整を病害虫防除・肥料検査課が、残留分析を生産流通部が実施した。
- 3) 2019年から倍濃度薬害試験が不要になった。但し、ボタニガードにおいてはメーカーからの要望で倍濃度薬害試験を実施した。
- 4) 2023年のしきみ薬効・薬害試験は東臼杵南部及び北部農業改良普及センターが実施し、病害虫防除・肥料検査課が成績書を取りまとめた。

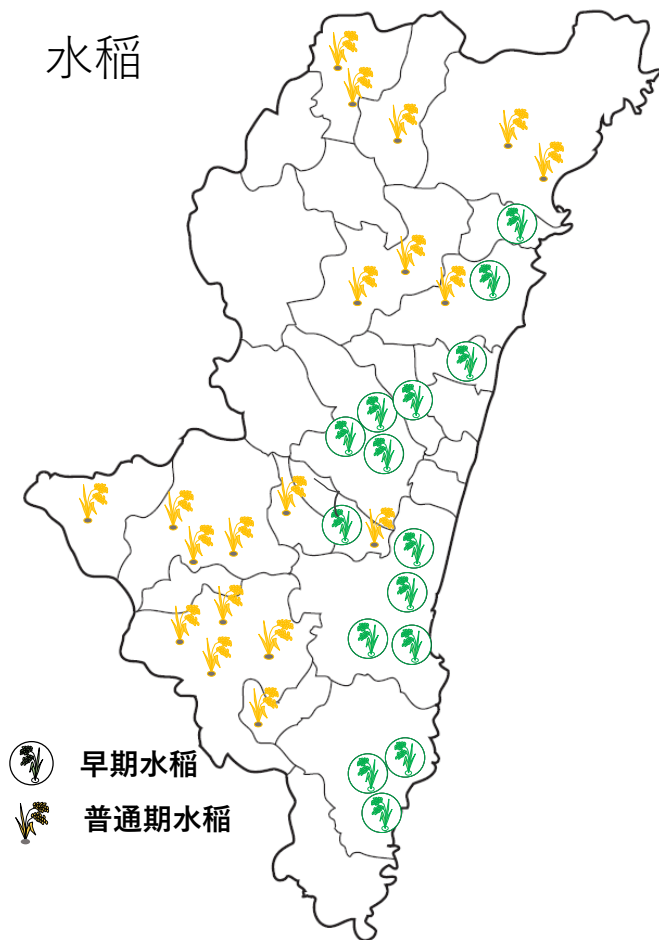
Ⅲ そ の 他

1 病虫害防除員の設置状況

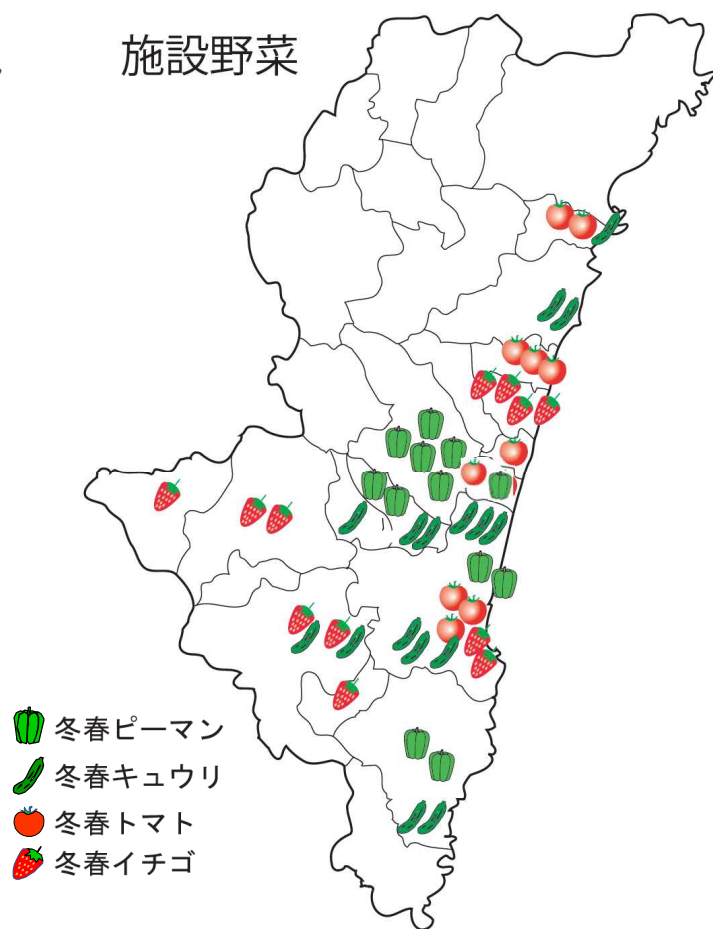
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町	1				1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	1		1		
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市	1				1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町						小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

2 巡回調査ほ場の分布図

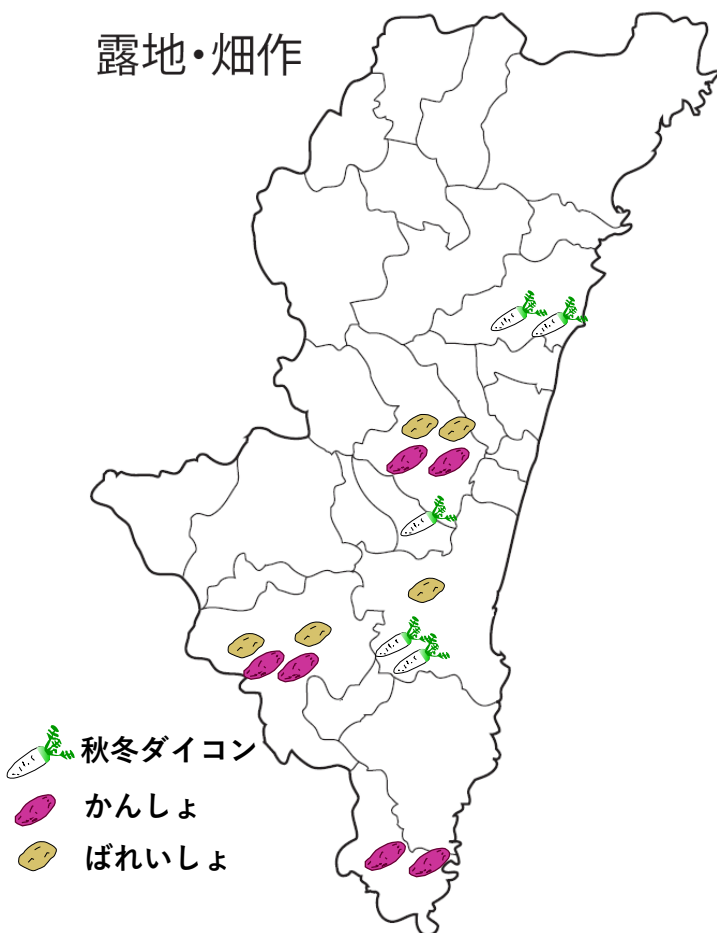
水稻



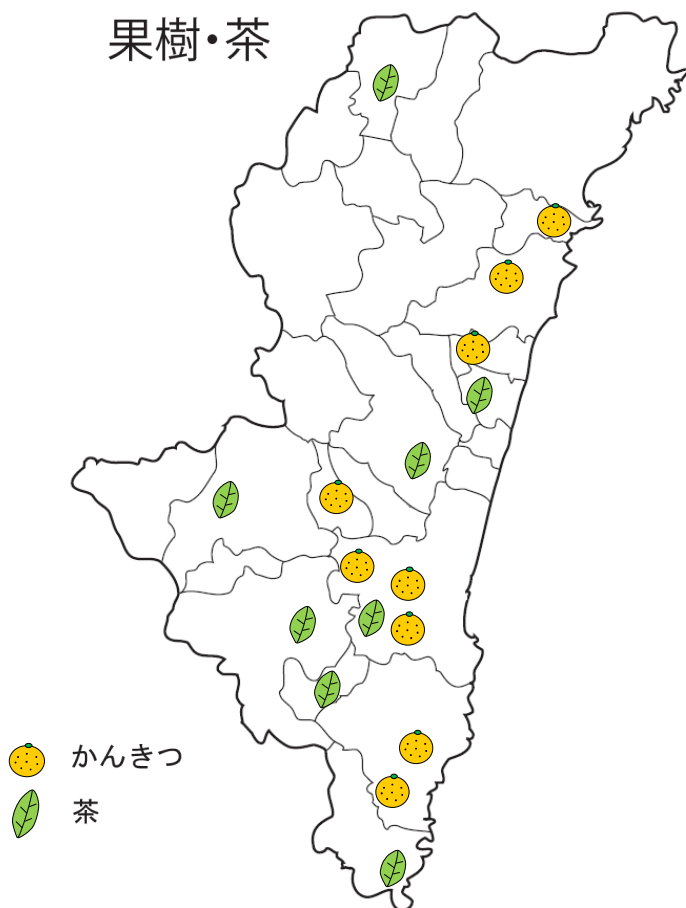
施設野菜



露地・畑作



果樹・茶



IV 令和5年度気象概況

月別気象概況（宮崎地方気象台作成の気象月報から抜粋）

○4月

高気圧に覆われて晴れた日があったが、気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。

各地の月平均気温は平年差 $+0.2^{\circ}\text{C}$ ～ $+1.0^{\circ}\text{C}$ 、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は140.0ミリ～543.5ミリ（平年比96%～177%）で、えびの高原はかなり多く、その他は平年並か平年より多かった。月日照時間は平年比88%～101%で、すべての観測点で平年並か平年より少なかった。

○5月

気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日があったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

九州南部（宮崎県を含む）は、5月30日ごろに梅雨入りしたと見られる。平年と同じで、昨年より11日早かった。

各地の月平均気温は平年差 -0.6°C ～ $+0.4^{\circ}\text{C}$ で、都城、加久藤で平年より高く、その他は平年並か平年より低かった。月降水量は102.5ミリ～379.0ミリ（平年比43%～112%）で、すべての観測点で平年並か平年より少ないか、かなり少なかった。月日照時間は平年比103%～122%で、すべての観測点で平年並か平年より多かった。

○6月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第2号や梅雨前線、低気圧等の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

各地の月平均気温は平年差 -0.1°C ～ $+0.5^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は320.5ミリ～853.5ミリ（平年比72%～126%）で、すべての観測点で平年並か平年より多かった。月日照時間は平年比93%～110%で、すべての観測点で平年並だった。

○7月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

各地の月平均気温は平年差 $+0.3^{\circ}\text{C}$ ～ $+0.9^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は220.0ミリ～673.0ミリ（平年比58%～140%）で、都城、日之影、西米良は平年より少なく、他は平年並か平年より多かった。月日照時間は平年比70%～96%で、すべての観測点で平年並か平年より少なかった。

○8月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第6号周辺の暖かく湿った空気の影響等で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

各地の月平均気温は平年差 -0.2°C ～ $+0.7^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は474.0ミリ～1473.0ミリ（平年比165%～368%）で、すべての観測点で平年より多いか、かなり多かった。月日照時間は平年比67%～85%で、すべての観測点で平年より少ないか、かなり少なかった。

北方、日之影は月降水量の多い方からの極値（年間の値）を更新した。

○9月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、湿った空気や熱帯低気圧、上空の寒気の影響等により曇りや雨で、局地的に雷を伴う日もあった。

各地の月平均気温は平年差 $+1.4^{\circ}\text{C}$ ～ $+2.2^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年よりかなり高かった。月降水量は31.0ミリ～242.0ミリ（平年比8%～73%）で、すべての観測点で平年より少ないか、かなり少なかった。月日照時間は平年比106%～140%で、鞍岡、神門は平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

月平均気温の高い方から 13 地点（全 17 地点）で極値を更新した。

生物季節観測では、9 月 28 日にすすきの開花を観測（平年と同じ、昨年より 5 日早い）した。

○10月

期間の前半は、気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨で大雨となった日があったが、期間の後半は概ね高気圧に覆われて晴れた日が続いた。

各地の月平均気温は平年差 -1.7°C ～ -0.5°C で、古江、西米良は平年よりかなり低く、その他は平年並か平年より低かった。月降水量は 30.5 ミリ～122.5 ミリ（平年比 15%～84%）で、古江、都農は平年よりかなり少なく、その他は平年並か平年より少なかった。月日照時間は平年比 121%～133%で、すべての観測点で平年より多いか、かなり多かった。

○11月

気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線等の影響を受けて曇りや雨となった日があったが、概ね高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

各地の月平均気温は平年差 -0.3°C ～ $+0.6^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並だった。月降水量は 17.5 ミリ～105.0 ミリ（平年比 15%～114%）で、鞍岡は平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。月日照時間は平年比 121%～138%で、すべての観測点で平年より多いか、かなり多かった。

生物季節観測では、11 月 22 日にいろはかえでの紅葉（平年より 12 日早く、昨年より 36 日早い）、11 月 24 日にいちよう黄葉（平年より 5 日早く、昨年より 4 日早い）、11 月 30 日にいちよう落葉（平年より 9 日早く、昨年より 7 日早い）を観測した。

○12月

気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線等の影響を受けて曇りや雨で大雨となった日があったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

各地の月平均気温は平年差 $+0.1^{\circ}\text{C}$ ～ $+0.8^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並だった。月降水量は 59.0 ミリ～115.5 ミリ（平年比 85%～143%）で、すべての観測点で平年並か、平年より多かった。月日照時間は平年比 88%～108%で、油津は平年より多く、延岡、神門は平年より少なく、その他は平年並だった。

生物季節観測では、12 月 6 日にいろはかえでの落葉を観測し、季節現象（寒候期）は 12 月 2 日に初霜、12 月 18 日に初氷を観測した。

○1月

高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響を受けて曇りや雨となった日もあった。各地の月平均気温は平年差 $+1.0^{\circ}\text{C}$ ～ $+1.6^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年より高いか、かなり高かった。月降水量は 8.5 ミリ～59.0 ミリ（平年比 14%～53%）で、すべての観測点で平年より少ないか、かなり少なかった。月間日照時間は平年比 107%～127%で、日向、神門は平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

○2月

高気圧に覆われて晴れた日があったが、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けて曇りや雨となった日が多かった。また、南から暖かい空気が流れ込んだ影響で気温は平年よりかなり高く、県内 13 の観測点で月平均気温の高い方からの極値を更新した。

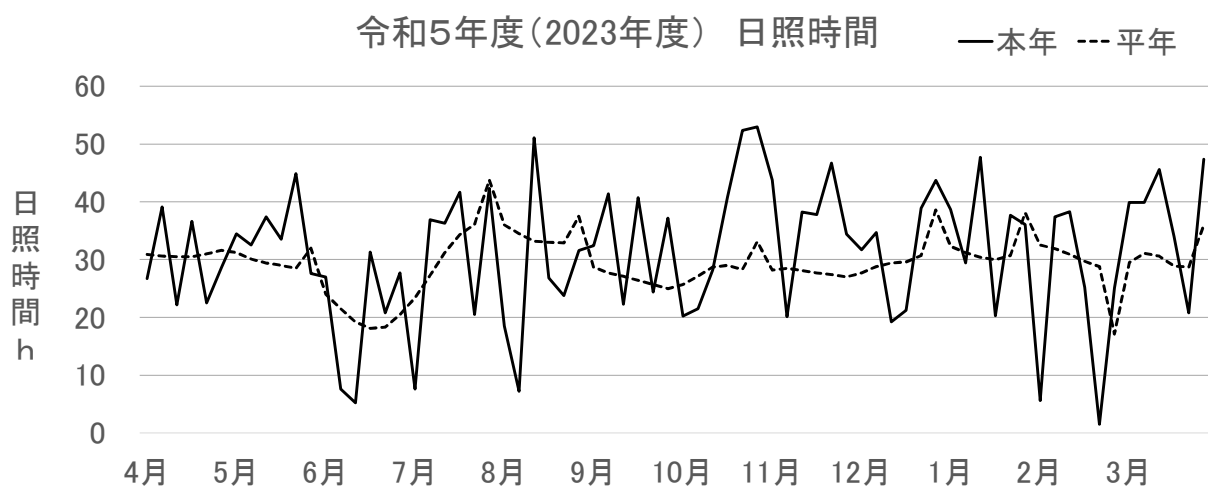
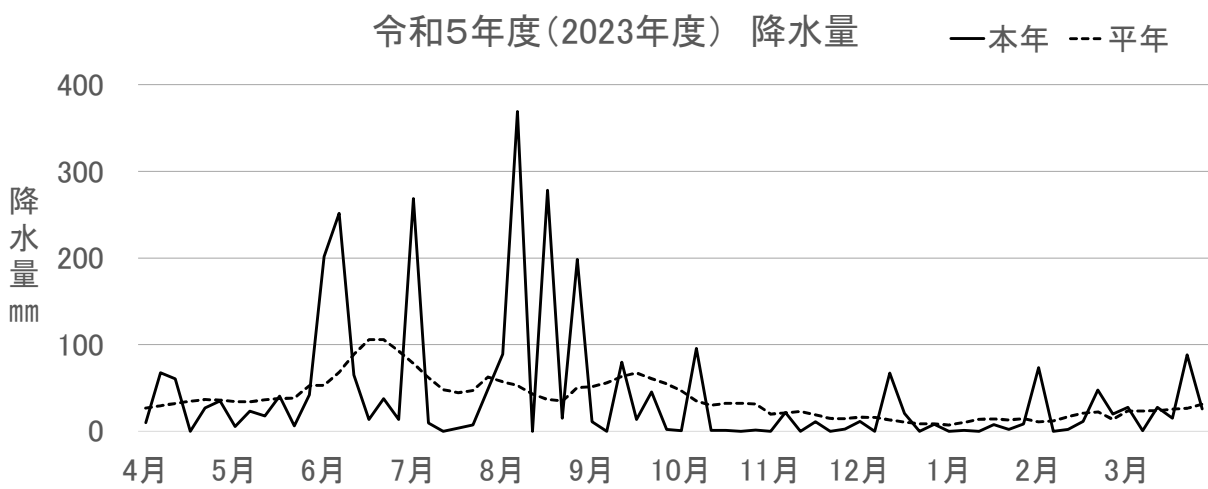
各地の月平均気温は平年差 $+2.0^{\circ}\text{C}$ ～ $+3.9^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年よりかなり高かった。月降水量は 136.0 ミリ～359.0 ミリ（平年比 125%～215%）で、すべての観測点で平年より多いか、かなり多かった。月日照時間は平年比 73%～86%で、すべての観測点で平年より少ないか、かなり少なかった。

○3月

天気は数日の周期で変化し、前線や湿った空気の影響で大雨となった日もあった。また、南から暖かい空気が流れ込んだ影響で日之影、椎葉では月降水量の多い方からの極値、県内 8 観測点で日最低気温の高い方からの極値を更新した。

各地の月平均気温は平年差 $+0.1^{\circ}\text{C}$ ～ $+1.0^{\circ}\text{C}$ で、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は166.0 ミリ～555.5 ミリ（平年比104%～234%）で、古江、日向、西都、赤江で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。月日照時間は平年比108%～123%で、古江は平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

生物季節観測では、25日にさくら（そめいよしの）の開花を観測（平年より2日遅く、昨年より6日遅い）した。



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)